

縮尺 10 万分の 1

土地分類図付属資料

大阪府

昭和 51 年

国土庁土地局

縮尺10万分の1土地分類図付属資料

目 次

利用者のために

A 土地条件等の概要

1. 地形区分とその性状等の概要	1
2. 表層地質の分布とその性状等の概要	6
3. 土壌統群の分布とその性状および生産力可能性等の概要	12
4. 土地利用現況等の概要	18
4-1 土地利用現況の概要	18
4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要	20

B 統計の部

1. 土地利用現況	28
1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳	28
1-2 D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳	32
2. 自然的土地条件	34
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳	34
2-2 標高区分別面積市町村別内訳	36
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	38
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳	42
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳	46
3. 土地利用可能性分級	50
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳	50
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	52
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	52
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	52
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	60
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	60
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	64
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳	66

利 用 者 の た め に

I 編集方針

この付属資料は、国土の開発、保全および利用の高度化に資する目的で作成された縮尺20万分の1、土地分類図（大阪府においては縮尺10万分の1）についての概要説明とその面積統計をまとめたものである。面積統計については、原則としてそれぞれの土地分類図の統計項目に対応した図巾について面積を測定し製表作成した。

たとえば、2-1表「傾斜区分別市町村別内訳」は「傾斜区分図」（オーバーレイ）を市町村の行政区画単位に面積測定して作成したものであり、3-2-1表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」は「土地利用可能性分級図」および「地形分類図」を用い、前者においては、土地利用可能性分級で類地のパターンを、後者においては地形区分のパターンをそれぞれ重ねあわせて面積を測定し、両者の面積的関連を把握して作成したものである。

ただし1-1表「土地利用現況別面積1-2表D.I.D. おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳」は府の統計資料等によって作成した。

以上両者の関連を示すと次表のとおりである。

統計表作成のために使用した土地分類等の一覧

統計表の名称	土地分類図等の名称										
	1 地 形 分 類 図	2 起 伏 量 ・ 谷 秘 度 図	3 傾 斜 区 分 図	4 表 （ 平 面 地 的 分 類 図 ）	5 表 （ 垂 直 地 的 分 類 図 ）	6 土 壤 図	7 土 等 壤 生 産 力 可 能 性 図	8 土 地 利 用 可 能 性 分 級 図 （ 土 地 利 用 現 況 図 ）	9 土 地 利 用 可 能 性 分 級 図	10 標 高 区 分 図	11 都 道 府 県 統 計 資 料 等
1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳								○			○
1-2 D.I.D. おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳											○
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳			○								
2-2 標高区分別面積市町村別内訳									○		
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	○										
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳				○							
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳						○					
3-1 土地利用可能性分級別市町村別内訳								○			
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○		
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○		
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○	
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連							○		○		
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳								○			○

Ⅱ 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターンの面積は、各図の図示表現の技術的な制約、すなわち最小図示単位として図上で5mm四方(1/10万分の1土地分類図では0.25km²)を原則とし、特殊な場合においても最小径を図上で2mm(200m)を限度としたため、実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。

とくにパターンの小さい性格をもつ分類項目にあつては、やや少な目に数値が出る傾向がある。したがって、この統計表を各種資料として使用する場合には、項目ごとの絶対数値を使用するのではなく、概括的把握ないし項目の構成比率等を用いるようにされたい。

なお面積の単位としては、できるだけ他府県のデータとあわせるよう、km²とし、単位未満は四捨五入としたが、府の土地利用上の特殊性を考慮し、土壤に関するものについては0.1km²単位を採用した。

Ⅲ 表中の記号について

「0」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は該当事実のないもの

「 」(空白)は編集時において資料がなく不明のもの

Ⅳ 府統計等の資料について

1. 市町村別面積

府全体面積および市町村面積は、全国市町村要覧49年度版(国土地理院S48.1.0.1現在)を採用し、単位はkm²とし、単位未満は四捨五入を原則とした。

2. 土地利用現況

1-1 表土地利用現況別面積市町村別内訳について

48年度に本府が都市計画に関する基礎調査の一環として行った土地利用現況調べを主として、次の資料等により補完した。

農地：S48～49 大阪農林水産統計年報

草地：S70 世界農林業センサス

林地：S48 12末現在、府農林部調べ

宅地：S48 12末、府土木部土地利用現況調査結果のうち、「一般市街地」「集落地」「商業々務地」「工場地」の合計

公共用地、その他：総面積より農地、草地、林地、宅地を差し引いたもの

1-2 D I D おおむね人口10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

48年度に本府が都市計画に関する基礎調査の一環として実施した土地利用現況調査の市街化区域市街化調整区域の原票をもととして、市街化区域を「市街地内」と市街化調整区域を「市街地外」として大きく分け、次のようなよみかえで行った、

市街地内

商業区：土地利用現況のうち「商業々務地」

工業区： " 「工業地」

住宅地： " 「一般市街地」と「集落地の計」

農林用地：土地利用現況のうち「田畑」「山林」の計

公共区：「公園、運動場、遊園地」「社寺敷地、公開庭園」「学校」「墓地」「公共施設」「道路鉄軌道敷」の計

その他のその他：市街化区域から、上記の合計を差し引いたもの

市街化調整区域について

農地：「田」「畑」の計

草地：「原野」「牧野」の計

林地：「山林」

宅地：「一般市街地」「集落地」の計

公共用地：「公園、運動場、遊園地」「社寺敷地、公開庭園」「学校」「墓地」「公共施設」「道路鉄軌道敷」の計

その他：市街化調整区域面積から上記の計を差し引いたもの

V 調査一覧

(1) 総括調整	大阪府企画部企画室 総合計画課	大阪市東区大手前之町(〒540) TEL 06-941-0351
(2) 地形分類	大阪大学教養部 地学教室	豊中市松兼山1の1 (〒560) TEL 06-856-1151
(3) 地質分類	〃	〃
(4) 土壌	大阪府立大学農学部 大阪府農林技術センター 調査部環境調査課	堺市百舌鳥梅町四丁目804(〒591) TEL 0722-52-6161 羽曳野市天度442 (〒583) TEL 0729-56-2281
(5) 土地生産力可能性等級区分	同上	同上
(6) 土地利用可能性分級	同上	同上
(7) 土地利用現況	同上	同上

A . 土地条件等の概要の部

1. 地形区分とその性状等の概要

大阪府の地帯構造は本州区の南日本内帯に属し、北部に丹波帯、中南部に領家帯、南縁部に外帯と接する和泉帯が東西方向に分布する。しかし、第四紀地殻変動による断層で生駒、金剛山地や大阪平野を分断する上町台地などの南北性の配列も見られる。

従って大阪府は、池田-箕面-茨木-高槻を結ぶ線の北に北摂山地が東西方向に走り、東縁はほぼ南北に走る生駒、金剛山地、南部をほぼ東西に走る和泉山地に囲まれる。これらの山地は一般に低山地で高度は低く、北摂山地では標高678.9mのボンボン山、生駒、金剛山地では標高642.3mの生駒山と標高1112.2mの金剛山*、和泉山地では標高897.7mの岩湧山がそれぞれ最高である。起伏量も一般に小さく、山地の大部分は中、小起伏山地に属し、僅かに金剛山地や和泉山地の一部に大起伏山地を見るにすぎない。

これらの山地には断層崖がみられ、山地前面には丘陵性の山地や丘陵が広く分布している。丘陵地は標高100m前後で、定高性を示すものが多く、大阪に対する地理的位置から住宅適地として大規模な開発による人工改変が著しい。

丘陵部の前面に台地が開展するが、その傾向は南部に著しい。台地は続いて沖積低地に移行する。沖積低地は大阪平野で、府下の中央部を占め、淀川の三角洲として発達し、起伏のない広い平坦面を形成する。また、中央部にほぼ南北に走る上野台地によって東大阪平野と西大阪平野に分断され、西大阪平野の西縁は海に接している。

1-1 山地

1-1-1 北摂山地

府下の北部に分布する山地を総称して北摂山地と呼んでいる。北摂山地は、東は京都盆地を望み、西は中山山塊をはさんで六甲山地に連なり、北は保津川流域の亀岡盆地に接し、南は急傾斜の斜面が東西に走り、丘陵や低地に移行する。

北摂山地(A-Ia)は急峻な斜面が発達するが、山頂部には定高性がみられ、高度は700m以下で、全体としては高原状の地形的特徴を示す。この山地の北には、丹波高原が広く拡がり、この山地は大観すれば丹波高原の一部といえることができる。

高原状の地形のみられるこの山地は、急崖が発達し、それらは断層崖で、断裂の著しい地塊山地といえる。断裂は南東~北西ないしは南西~北東の方向性がみられ、河川の流路は構造に支配され、断裂系の方向と類似した方向性がみられる。

山地内では、これらの構造に支配された河川の侵食と堆積によって形成された小盆地群がみられる。小盆地群としては原、田能、余野、宿野などにみられ、これらの内で規模の大きいものは能勢山間盆地群(A-Ib)である。この盆地群は、前述の構造線の交差部に発達したものとみられる。

北摂山地の大部分は、丹波帯の中・古生層よりなるが、茨木奈佐原から能勢にかけては花崗岩類よりなり、両者では地形にかなり差異が認められる。

1-1-2 生駒、金剛山地

生駒、金剛山地は、府下の東縁に位置し、東は奈良盆地に、西は急崖が南北に走り、大阪平野に接し、北は次第に緩傾斜になり枚方丘陵に移行し、南は和歌山県の紀ノ川水系により限られる。また中央部に大和川が山地を分断し、大和川河谷(A-Id)によって生駒山地と金剛山地に分けられる。

* 金剛山の山頂部は、奈良県に属し、府下では金剛山の南の尾根部の標高1,050mが最高である。

生駒山地(A-IIa)は大和川河谷の以北の山地について呼んでおり、ほぼ中央部に位置する生駒山を除き、大部分が500m以下の低山地である。山地の西斜面は、断層崖による急崖が発達している。この部分を生駒西麓地(A-IIb)と呼んでいる。生駒山地の西麓は急崖が発達しているのに反し、東斜面はきわめて緩傾斜で、南北方向に南から北へ流れている天野川や北から南へ流れている竜田川によって形成された生駒盆地(A-IIc)に接する。生駒盆地は南北に細長い舟状構造をした盆地で、第四紀地殻変動による南北性の構造線によって形成された構造的盆地といえる。

大和川河谷の南には金剛山地が南北に連なる。大和川河谷の南に接して二上山地(A-IIe)がみられる。二上山地は、その南部に雄丘(510m)と雌丘(474.2m)の美しい山形を示す二上山がそびえ、その周囲を丘陵性山地、あるいは丘陵地が取りかこんでいる。

二上山地の南縁には大阪府太子町と奈良県当麻町竹内を結ぶ竹内街道が走り、それによって区切られ、その南には葛城山(959.7m)を中心とした葛城山地(A-IIf)と金剛山地(1112.2)を中心とした金剛山地(A-IIg)が連なる。両者は水越川の河谷によって接している。これらの山地は起伏が大きく、大起伏山地を形成している。

生駒、金剛山地は、第三紀中新世の火山岩類や堆積岩よりなる二上山地を除き、領家花崗岩類によって構成される。二上山地の二上山は山頂部に火山岩が分布し、また生駒山山頂部では生駒石(塩基性岩石の一種)がみられ、いずれも風化や侵食に対する抵抗力が大きく、他より高い山地として残った。生駒山地の北部は風化が著しく、比高も小さいので土砂採取が著しく、人工改変地形が各所にみられる。一方、大和川河谷には、大和川構造帯が走り、亀ノ瀬の地すべり地が発達し、府下の最も大きな地すべり地形が大和川の北にみられる。

1-1-3 和泉山地

和泉山地(A-III)は、別に和泉、葛城山地とも呼ばれ、大阪府下の南縁に位置し、ほぼ東西方向に走る。その東端は天見川を経て金剛山地に連なり、西端は直接海に接し、北縁はほぼ東西性に走る谷をへだてて丘陵部や台地に移行し、南縁部は和歌山県の紀ノ川低地にかなりの急斜面をもって接している。

和泉山地では標高897.7mの岩湧山が最高で、この付近では大起伏山地を形成するが、他は中、小起伏山地に属し、東から西にゆくに従って岩湧山、燈明岳(857.5m)、葛城山(858m)、高城山(569m)、姐石山(420m)、飯盛山(384.5m)、高盛山(284.5m)、と次第に高度を下げ、海に接する。

和泉山地の主谷は、南北～南東～北西方向に走り、ほぼ等間隔で発達する。これらは恐らく第四紀地殻変動による断裂に支配されて形成されたものとみられる。一方、東西性の谷も顕著で、山地の北縁を走る水間から天野町を経て加賀田に至る線や東鳥取町から大木、蕎原を経て牛滝に至る線に発達し、これらは和泉層群、泉南酸性火砕岩類、領家花崗岩類の分布の境界部と一致するが、構造にも支配され形成されたものと考えられる。

1-2 丘陵

1-2-1 北大阪丘陵

淀川と北摂山地に囲まれた地域には、いくつかの丘陵が発達する。ここでは、これらをまとめて北大阪丘陵(B-I)と呼ぶことにする。

北大阪丘陵の最も大きいものに千里丘陵がある。千里丘陵(B-Ia)は、ほぼ四角形とし、東は淀川低地帯に、西は猪名川低地帯に、北は旧西国街道に、南は大阪平野に囲まれた丘陵である。北西部に千里川が北東～南西方向に流れ、刀根山丘陵を作る。丘陵の高度は30～100m程度で、一般に南から北へかけて次

第に高くなっている。丘陵部は開析がすすみ、小支谷が複雑に発達している。千里丘陵は大部分が大坂層群によって構成され、土砂地盤で宅地造成が容易で大規模な開発が行われている。その一つは千里ニュータウンであり、他は万国博会場である。また、大阪市内との地理的關係から殆んど開発しつくされ、かつての自然地形は殆んどみられない。大規模な人工改変地の代表的な地域といえる。丘陵の西端部は曾根一豊中に分布する豊中段丘（中・低位段丘）・千里川に沿って発達する千里川段丘（低位段丘）、刀根山丘陵の平坦部を形成する桜井段丘（高位段丘）などの段丘地形がみられる。

千里丘陵の北に接して箕面丘陵（B-Ic）が発達する。箕面丘陵は、いくつかの丘陵地形の複合で、東は箕面池田にまたがる扇状地、箕面から安威川に至る間の北摂山地山麓部やそれに接する丘陵群からなる。従って山麓地・小起伏丘陵・扇状地・段丘等の地形がみられる。

箕面丘陵の東部に檜尾川と安威川に囲まれた三角形の丘陵部が発達する。これが高槻丘陵（B-Ib）で、かなり起伏が大きく大起伏丘陵地に属する。北摂山地に発達する断裂系の影響により、山地内に入り込んだ丘陵部を形成したものと思われる。これらの丘陵は、いずれも大坂層群あるいは段丘層から構成され、千里丘陵と同様に人工改変がきわめて著しい。

1-2-2 枚方丘陵

枚方丘陵は、東は京都盆地に接し、西は生駒山地西縁の北方延長である崖線によって限られ、北は淀川に、南は生駒山地に接する丘陵部である。

丘陵部は船橋川、穂谷川、天之川の淀川支川が西北-南東方向に流れ、丘陵を分断する。この中、穂谷川と船橋川によって区切られた丘陵北部地区は長尾丘陵（B-IIb）とよび、生駒山地につづく小起伏丘陵で最高142.5mの男山が淀川に接する北端にみられる、他の丘陵は高度60m前後である。最近、宅地開発により、大規模な人工改変がすすめられている。

枚方丘陵地の南部が、一般に枚方丘陵と呼ばれるもので、最高80.7m、平均50m前後の高度を示すきわめて定高性の高い丘陵である。これは、丘陵全体は大坂層群より構成されるが、その平坦部には段丘層（中位段丘）が広く発達しているためである。枚方丘陵は定高性が著しく高いので、府下では最初の大規模な団地が建設された。香里団地や枚方団地がこれにあたる。

1-2-3 南大阪丘陵地

大阪府下の南を流れる大和川とその支流である石川流域には、いくつかの丘陵群がみられ、これらを総称して南大阪丘陵地（B-III）と呼ぶことにする。

南大阪丘陵地の中央部には南北に流れる石川がみられ、石川の左右兩岸を中心に氾濫原が発達している。また、これらの氾濫原に接して段丘が分布している。これらの地区をここでは石川低地（B-IIIe）として取扱った。

石川左岸に接する富田林丘陵（B-IIIa）は細長い楕円形をし、石川に面した斜面は急で、西ないし西北に次第にゆるく傾斜する。標高は最高100m前後で、比較的低平で、小起伏丘陵に属する。この丘陵はPL教団関係の施設をはじめ、ゴルフ場、住宅地などの開発が著しく、地形の改変がかなりすすんでいる。

富田林丘陵の南に河内長野丘陵（B-IIIb）が発達する。この丘陵は東を天見川で、西を天野川で限られ、南は和泉山地へと延びる。大観すると盆地状地形を示すが、中央を流れる石川や上記の河川の氾濫原や段丘が発達し、比較的平坦部が多い。丘陵は富田林丘陵と同様に大坂層群から構成され、近年宅地開発が急速に伸展し、人工改変地が多い。

石川と佐備川に限られた地区は嶽山山地（B-IIIa）で、別に佐備丘陵とも呼ばれている。南縁に嶽山（278m）や金胎寺山（296.5m）があり、低山地を形成するが、北西部、あるいは北部では標高100m前後となり山麓地を形成する。佐備川には兩岸に沿って南北に細長く氾濫原が分布する。

石川右岸には河南丘陵(B-IIIc)が発達する。この丘陵は東を二上山地あるいは金剛・葛城山地に、東西は石川およびその支流の佐備川によって限られた南北に細長い丘陵で、いくつかの小丘陵群からなる。飛鳥川より北には玉手山丘陵、太井川と飛鳥川に囲まれた太子丘陵、太井川以南を一般に河南丘陵とよんでいる小丘陵群で、河南丘陵は、さらに梅川や東条川によって小丘陵群に分断されている。

いずれも小起伏丘陵で、各河川には氾濫原や段丘が発達している。また丘陵の平坦面の一部には高位段丘が分布する。この丘陵は、大部分大阪層群や段丘層から形成されるが、開発の手が延びるのがおそく、自然地形がかなり保存されている。

富田林丘陵の西北部に美原台地(B-IIIe)が広く広がる。美原台地は河内台地あるいは羽曳野台地とも呼ばれ、東徐川と西徐川に囲まれる。この台地は30~50m前後の高さで、定高性はきわめて著しい。

1-2-4 泉北丘陵

泉北丘陵(B-IV)は大阪南部の最も広い丘陵地で、東は天野川および西徐川によって、西は中滝川によって限られている。南は和泉山地に接する。和泉山地は、南部では中起伏山地で高度も800~500mと高く、北に行くに従って小起伏山地になり500~200mと高度を下げる。その前面に位置するのが泉北丘陵地で、その南部では大起伏丘陵地がみられる。丘陵地においても南から北へ高度を下げ、丘陵の主要部では100m前後となる。丘陵は、石津川・和田川・榎尾川・松尾川とほぼ平行する河川によって分断され、各河川では段丘や氾濫原・沖積低地等が河岸に沿って分布する。丘陵は大阪層群によって構成されるが、谷部に沿って構造線が発達し、粘性土の発達と相まって小規模の地すべりが多数にみられる。これらのいくつかは「地すべり等防止区域」の指定を受けている。一方、泉北丘陵は丘陵としてまとまった面積が大きく、土工の容易な土砂地盤で、大阪市内への地理的条件が加わり、千里丘陵と同様に大規模な宅地開発が行われている。泉北ニュータウンの開発事業がそれである。現在、大規模な人工改変が急速にすすめられつつある。丘陵の北縁部では、一層高度を下げ、平坦部が広がり、信太山台地に接している。

1-2-5 泉南丘陵地

泉南丘陵(B-V)は東を中滝川で限られ、西は大阪湾に、南は和泉山脈に囲まれた東西に細長い地区である。南に分布する標高500m前後の和泉山地が南から北へ高度を下げ、100~300mの山麓地となるが、その前面に100m以下の小起伏丘陵地が発達する。これが泉南丘陵(B-Va)で、小河川が2~5km間隔で発達し、いくつかの小丘陵に分かれる。泉南丘陵の南部には東西4km、南北0.5~1kmの神於山山地(B-Vb)がある。この山地は東部が高く、標高240~290mであるが、西部は標高140~220mで、その北方の丘陵に連続する。山地は四方を急傾斜面で囲まれている。また山地の中央部を津田川が穿入蛇行して流れ、山地を東西に2分する。丘陵の前面には広い台地がある。また、丘陵を分断する小河川の両岸には段丘が細長く分布する。

泉南丘陵地では、古くから農耕が発達し、果樹園も多いが、宅地開発は一般に少く、自然地形の保存等は、府下の他の丘陵に比して高い。

1-3 台地

1-3-1 上町台地

上町台地(C-I)は、大阪平野を分断するように細長く半島状に南北にのびる台地である。この台地は標高15m前後の低い台地で、その平坦面は中位段丘面とされている。台地の西縁は急崖をもって大阪平野に沈むが、東側はゆるく東大阪平野に移行している。南は大和川によって限られるが、信太山台地へと続く。大阪市内の最も住宅に適した地区で、台地の南部には古くから住宅が発達した。

1-3-2 信太山台地

信太山台地(C-II)は上町台地の南の延長部にあり、堺市・和泉市・高石市・和泉大津市にまたがるもので、高度を異にする数段の段丘面がみられる。信太山の付近に発達するものは高位段丘面とされている。他は中位あるいは低位段丘面である。

1-3-3 泉南台地

泉南台地(C-III)は信太山台地につづくもので、大津川以南の海岸に平行して発達している。また、いくつかの小河川の河岸にもみられ、丘陵内部に入りこんでいる。標高は10~50mと南東方向に次第に高くなっている。平坦面は数段みられ、中位あるいは低位の段丘面に相当するものとされている。

1-4 平野

1-4-1 大阪平野

大阪平野は、大阪府下の中央部を占める広い平坦な低地で、上町台地によって西大阪平野と東大阪平野に分けられる。

西大阪平野(D-Ia)は、上町台地の西に位置し、その西縁は海に面している。標高は0~数mときわめて低く、海に面する所では0m以下の所もみられる。大阪府下で最も古くから発達した地域で旧市街や工場が分布する。軟弱地盤の厚く発達する地帯で、地盤沈下が著しかったが、近年地下水汲上げ規制により、やゝ沈下の速度はおそくなった。一方海岸では古く江戸時代から埋立が行われ、広い埋立地が海岸に沿って分布する。

東大阪平野(D-Ib)は上町台地の東に位置し、河内低地とも呼ばれる。寝屋川沿岸の低地はもっとも低湿な地帯で、標高0~2mが大部分を占め、降雨期にはしばしば浸水する。軟弱地盤の発達も西大阪平野同様に大きく、近年、工場などの進出がみられ、地盤沈下が著しい。この低地に流れる河川の一部には、河川沿いに小規模な自然堤防が点在する。

近鉄奈良線以南の地区は、旧大和川によって形成された氾濫原が発達する。この地域は柏原付近を要として扇形に展開し、標高も15~5mと高く、下流に向かってほぼ同心円状に低下している。この地帯を旧大和川扇状地(D-If)と呼んでいる。この中を流れるいくつかの河川は天井川となっている。

大阪平野の北を淀川が流れている。淀川に沿って淀川低地(D-Ic)がみられる。また北西部には猪名川が流れ、猪名川に沿って猪名川低地(D-Id)がみられる。これらの低地はそれぞれの河川による堆積物によって覆われている。

堺から泉北にかけて海岸線に細長く低地帯が分布する。これが堺・泉北臨海平野(D-Ie)で、近年大規模な埋立地が出来、多くの工場が進出し、堺・泉北臨海工業地帯を形成している。また最近、泉州を中心として地盤沈下が急速にすすみつつある。

中世古 幸次郎 (大阪大学教養部)

中 川 要之助 (同志社大学工学部)

2. 表層地質の分布とその性状等の概要

2-1 表層地質の分布について

大阪府の地質構造は本州区の西南日本南帯に属し、基盤岩類は東西に配列している。北部は丹波帯の中・古生層、中・南部は領家帯の花崗岩質変成岩、南縁部は中央構造帯に平行する白亜系の和泉層群からなる。中部にはそれらの基盤を覆って、新生代層の二上層群、大阪層群、段丘層などの分布する丘陵や台地が、また沖積平野が広がる。

2-1-1 領家花崗岩質変成岩

生駒山地、金剛山地および和泉山地北部に分布する。概略東西性の構造を示す。主に花崗岩類（花崗岩、花崗閃緑岩）からなるが、堆積岩起源の低変成の接融変成岩や塩基性岩を含む。

2-1-2 茨木複合花崗岩体

北摂山地の茨木市北部から能勢町にかけて、古生層を貫いて花崗岩類がほぼN30°W方向の細長い楕円状に分布している。能勢岩体と妙見岩体からなり、石英閃緑岩、細粒斑状アダメロ岩などより構成される。

2-1-3 泉南酸性火砕岩類

大阪府西部、和泉山地北部に東西に細長く分布する。北は領家花崗岩質変成岩に著しい断層で接し、南は和泉層群により不整合に被われる。流紋岩質溶結凝灰岩を主とし、部分的に酸性凝灰岩・凝灰質砂岩・泥岩よりなる地層をはさんでいる。溶結凝灰岩は比較的細粒の基質中に石英や長石の結晶片を多量に含んでいる。

2-1-4 有馬層群

兵庫県南東部に分布し、一部は大阪府北部にも小分布する。全体として流紋岩類からなるが、石英・長石の斑晶がある粗面岩、流紋岩状の溶結凝灰岩、凝灰岩、凝灰角礫岩、頁岩、砂岩、礫岩なども含む。

2-1-5 円波帯の中・古生層

大阪府北部の北摂山地に分布する丹波帯の中・古生層はいわゆる秩父古生層で丹波層群と呼ばれている。古生代末の二疊紀に形成されたと考えられているが、近年の研究によると一部は中生代三疊紀に含まれる可能性がある。砂岩、頁岩、チャートおよびそれらの互層、輝緑凝灰岩、僅少の石灰岩よりなる。ほぼN70°Wの走向をもち、向斜構造を示す。茨木市車作付近から島本町に至るものを桜井向斜、兵庫県川西市山下付近から箕面市上止止呂美に至るものを山下向斜と呼んでいる。しかし、古生層の構造は基盤のブロック状断裂により乱されているため、表層地質図に走向・傾斜は記入していない。

2-1-6 和泉層群

中生代白亜系の海成層を主とする。全層厚は7,000m以上に達する。泉南酸性火砕岩類を不整合に被い、下位より笠山基底礫層50m、汗ノ谷頁岩層400-500m、金熊寺砂岩礫岩層1,000m⁺、童子畑砂岩頁岩層1,500m、葛畑砂岩礫岩層2,000m、根来頁岩砂岩層500m⁺、および礫岩、砂岩、シルト岩からなる名手層に区分される。全体として、東西性の向斜構造で、向斜軸は南部を通る。

2-1-7 二上層群

新生代第三紀中新世の石英安山岩質の溶結凝灰岩、凝灰岩、溶岩およびそれと互層する非海成の碎屑岩（礫岩、砂岩、泥岩）からなる。二上山付近の他、大阪府南部に相当層の分布が点在する。

2-1-8 神戸層群

礫岩、砂岩、泥岩および凝灰岩の互層からなる主に非海成の新生代第三紀中新世の堆積岩である。兵庫県南部に広く分布するが、大阪府でも千里丘陵北部や北摂山地南縁に花崗岩質粗粒砂岩や角礫を含む暗青色凝灰質泥岩が小分布している。

2-1-9 大阪層群

新生代新第三紀鮮新世末から第四紀更新世中期の地層で、丘陵における全層厚は350m+、平野の地下では700m+に達する。下部は砂礫層が卓越し、主に非海成層で、大阪府南部に分布している。上部は海成粘土層と砂礫層の互層で、淀川沿岸を含む北部に主に分布している。海成粘土層は丘陵では11枚発見されており、下位よりMa0、1、2……10と呼ばれている。Ma3海成粘土には厚さ30-70cmの赤紫色のアズキ火山灰層が挟まれており、Ma3とともによく連続する。これを境に、大阪層群は上部と下部に区分されている。

2-1-10 段丘層

大阪府南部、北摂山地南麓、生駒山地西麓に広い平坦な堆積面を残す段丘層が分布している。平坦面の高度により高位段丘層、中位段丘層、低位段丘層に三区別される。

a 高位段丘層

主に礫層からなり、段丘面の高度は30-200mで大阪層群の丘陵部に達する。表層は強く風化を受けて赤色土化している。泉北地域の信太山礫層、枚方付近の長尾礫層、千里丘陵の桜井礫層、穂積礫層などがある。

b 中位段丘層

黄褐色のやや風化を受けた砂礫層からなり、中部に海成粘土層が挟まれる。高度は10-100mで最も広い台地を作る。大阪市の上町台地の上町層、枚方市の枚方層、豊中市の豊中礫層などがある。大阪府南部に広がる高度20-70mの台地もこれが作ると考えられる。

c 低位段丘層

厚さ10m前後の砂礫層からなり、シルト層をはさむ場合もある。段丘面の高度5-50mであるが、平野の地下に続くものと考えられている。高槻市の富田礫層からは寒冷気候を示す植物化石が見つかっている。大阪市地下の天満礫層は低位段丘層に相当するものと考えられている。

2-1-11 沖積層

上町台地より西の大阪市街地下で詳しく調べられている。低位段丘層相当の天満層を基低とし厚さ10-30mである。下位よりシルト層、砂層、梅田層と呼ばれる海成粘土層、シルト層、および砂層からなる。C¹⁴年代測定によると、下部は10,000年前後、海成粘土層は約5,000年、上部の砂層は2,000-3,000年である。最近の研究によると、下部の砂層の欠除した部分では数千年の時間間隙が予想されている。

2-1-12 地質構造

大阪府下の地質構造は基盤岩類の東西性に配列した構造と、第四紀地殻変動の断層によるブロック構造により特徴づけられている。基盤岩類の構造はそれらが形成されて後、現在に至るまで長期間に形成された。他方、大阪層群形成後活発になった第四紀地殻変動は基盤のブロック状断層運動を伴い、大阪層群を変形した。この地殻運動は六甲変動と呼ばれており、近畿中央部の現在の地形のほとんどがこれにより形成されたと考えられている。その断層の方向は、南北性を基本としているが、均質等方体に圧縮応力を加えたモデルで説明され、様々な方向のものを含んでいる。大阪府下の主要な断層としては、池田市五月山から高槻市天神山を通り、京都府山南方に達する北摂山地の南縁を通るもの、池田市五月山の西側から余野川沿いに京都府亀岡市に達する北東-南西方向のもの、生駒山地西麓を通る南北方向のもの、それに柏原市亀ノ瀬地区の大和川の峡谷から富田林市、河内長野市を通り、泉南地域に達する北東-南西方向のものなどが上げられる。地質図ではこの他、大阪層群およびそれよりも新しい地層の変位の認められるものについて、断層を記入した。また、大阪層群が急傾斜する場所では、地下の基盤岩が断層で変位しているものと考えられる。

2-2 地盤の形成過程

人間生活は、もっぱら地殻表層部で営まれている。現在人間は表層部に様々な改変を加えて生活しているが、基本的にその生活様式は地殻表層部の性状に規定されていると言える。表層地質も性状の一部であるが、それは永い地球の歴史を通じて形成されたもので、その形成過程こそ性状を決定するものである。

表層地質と人間生活が一体となったものを地盤[※]という概念でとらえ、大阪府下における地盤の形成過程を考察した。

地盤の形成に重要と考えられる地質現象(地史)として、段階的に基盤岩類の形成→神戸層群の形成→大阪層群の形成→第4紀地殻変動と気候変化→人間の働きかけなどをあげることができる。

2-2-1 基盤岩類の形成

府下の基盤岩類は、北から丹波帯の中・古生層、それらを覆い、おもに兵庫県に広く分布する中生代白亜紀の火山岩類、瀬戸内から近畿中部の低地帯の基盤をなす領家帯の花崗岩類と変成岩、丹波帯南部の中・古生層を貫く中生代後期の花崗岩体、領家帯南部に分布する中生代白亜紀堆積岩の和泉層群などから成る。それらは数回にわたる造山運動や火成活動のくり返しにより形成されたと考えられている。

東西方向の基盤岩類の配列は島弧に沿ったもので、その形成過程は日本列島形成の一環としてとらえなければならない。それはアジア大陸と太平洋の境における地史といえる。しかし、それは非常に大きいスケールでの話で、それぞれの基盤岩内部でのローカルな岩相分布を説明しうほどの詳しい形成過程は判っていない。従って、基盤岩類の分布はそれ以後の地盤の形成過程の初期条件としてとらえるべきである。

2-2-2 神戸層群の形成

近畿中央部には神戸層群の他に、新第三紀中新世(約 $2.5 \times 10^7 \sim 1.0 \times 10^7$ 年前)に形成された地層として、大阪府南部の二上層群、奈良県南部の室生火山岩、江和高原の綴喜層群、藤原層群などが分布している。これらは主として、海成層よりなるもの(藤原層群、綴喜層群)、非海成層よりなるもの(神戸層群)および火山岩を主体とするもの(二上層群、室生火山岩)に区分される。それらの年代から形成順序は非海成層→海成層→火山岩類であったと考えられている。このような地層区分と形成順序は、府下を含めて瀬戸内海沿岸地域から東海地方にかけての中新世の地層に共通しており、海成層が堆積した海は第一瀬戸内海と呼ばれている。第一瀬戸内海は日本列島の中でも比較的構造の安定した西南日本内帯に形成した浅海性の堆積盆地で、そこに堆積した地層も他地域の中新統に比較して薄く、その岩相から判断して地殻変動も穏かであったと考えられる。これに対して、外帯や日本海沿岸地域の中新統は多量の火山岩と厚い地層で特徴づけられており、それを形成した地殻変動はグリーンタフ変動と呼ばれている。

府下でもグリーンタフ変動の影響を多少は受け、中新世中・後期に火山活動が活発に起り二上層群が形成された。

2-2-3 大阪層群の形成

第一瀬戸内海の後、数百万年の間、鮮新世中期までの本地域の地史は地層の分布が非常に少ないため明らかでない。しかし、鮮新世以後の地史から推定して、その時代は小規模な堆積盆地の形成と消滅が繰返し行われてただけで地殻変動も少なく比較的穏かであったと考えられている。

鮮新世後期から更新世にかけて、近畿中央部では中～西部には大阪層群、東部には古琵琶湖層群、その東方の伊勢湾沿岸地域には東海層群(奄芸層群、常滑層群)が分布している。これらの地層に関して詳細

*地盤とは、「人間の生産活動あるいは生活に関係する地殻表層部で岩石または土から構成され、一般には構造的や築造を対象とした地殻表層部をいう」と定義しておく。

な研究が行われており、第一瀬戸内海の時代よりもその地史は明らかである。

伊勢湾沿岸から本地域にかけて、地層の形成期は、東から西へ常滑層群→奄芸層群→古琵琶湖層群→大阪層群の順でオーバーラップしながらより新しい時代を示し、また各地層の分布域においては、南から北へ時代が新しくなる傾向がある。

これらの地層が堆積した盆地は第一瀬戸内海のような一連の広がりではなく、南東から北西へ移動した波動の谷とすることができよう。

近畿中央部においては鮮新世末期(2.5~2.0×10⁶年前)に滋賀県南部、奈良盆地周辺、大阪府南部と東北東-西南西方向の地帯で地層が形成され、それは次第に北へ移り、更新世中期(約8.0×10⁵万年前)以後は琵琶湖、京都盆地、大阪湾を結ぶ北東-南西方向の地帯で主に堆積が行われるようになった。古琵琶湖層群はすべて非海成層であるが、大阪層群の中-上部(1.2~0.4×10⁶年前)は非海成層と海成粘土層の互層からなる。このような互層は水期-間水期の繰返しによる海水準の変動を反映したものと考えられている。

2-2-4 第四紀地殻変動と気候変動

大阪層群や古琵琶湖層群を形成した地殻の運動は、波長50~100km、波高数km、周期数1.0×10⁵~1.0×10⁶年というゆるやかな褶曲運動(波動)である。そのため運動期間中に隆起部の侵食と沈降部の埋積による地形の平坦化作用が十分行われ得たものと考えられる。しかし、大阪層群や古琵琶湖層群はその最上部層さえも急傾斜したり断層で切られたりしている。また、これらの最上部は下位の地層に比べて分布域が狭く、岩相の側方変化も大きい。これは更新世中期以降に変動が活発に行われるようになったことを示している。このような傾向は日本各地で認められており、第四紀地殻変動と呼ばれている。これはそれまでに起ったゆるやかな褶曲運動に対して、断層で区切られた基盤ブロック相互の活発な変位を特徴としており、現在の地形の大部分はこの地殻変動により形成されたと考えている。基盤岩の断裂運動のため、それを覆う神戸層群や大阪層群も褶曲したり、断層で破砕されたりしている。その運動方向は、西部(六甲山地より西方)ではおもに水平であるが、地殻変動が集中した近畿三角地帯に属している。府下の大部分は垂直方向が顕著で、けわしい斜面に囲まれた山地と厚い沖積層の分布する盆地との対照が明確である。

第四紀になって極地方の寒冷化が進み、氷河の影響を直接受けることはなかったが、氷河の発達による海水準低下が全世界におよんだため、大阪層群では水期に非海成層が、間水期に海成層が形成された。更新世後期にはこの傾向がより激しくなり、植物化石によってその気候変化が明らかである。大阪層群堆積後も間水期には海水準が上昇して、おもに河川による堆積が行われ、基盤山地や丘陵では気候の温暖化のため化学的風化が進行した。また、氷期には海水準が低下して、河川の侵食力が増し、段丘が形成されたり、山地や丘陵の侵食が寒冷気候での機械的風化も加わって進行した。

2-2-5 人間生活の拡大

第四紀は人類の出現で特徴づけられるが、日本でも比較的早くから文化の開けた府下には、長年にわたる人間生活の跡が数多く残されている。人間は自然環境に働きかけ、多少ともそれを改変して、より自らが適応しやすいようにしてきた。そのような影響は古代国家成立以前はわずかなものであったろう。しかし、生産力が増し、社会が複雑化するにつれて、自然への働きかけもより多様でより大規模なものとなった。農耕面積の拡大、エネルギー源や建築のための森林の伐採および土木工事などは、人類出現以前に地盤と大気の相互作用で安定してきた自然生態系をこわし、地盤の性質さえも変化させるほどになった。特に地質サイクルから見て、存続期間の比較的短い段丘層や丘陵や山地の風化層はその不安定さが増した。しかし、そのような地域の地盤は人間生活に好ましかったとも言える。人間の地盤に対する働きかけはさ

らに増大する傾向にあり、そのためこれまでの地質現象では予期し得ない方向に地盤の性質変化する可能性が考えられる。

このように府下の現在の地盤は、初期条件としての基盤岩類の形成、神戸層群や大阪層群の堆積をもたらした穏やかな褶曲運動、基盤岩の断裂運動で特徴づけられる第四紀地殻変動、氷期-間氷期に伴う気候変動および人間による改変などが複合して成立していると言える。この中で人間生活に関して時間的に変化が問題になるほど活発に変化しているものは、第四紀地殻変動と気候変動および人間の自然への働きかけである。これらはすべて第四紀を特徴づける要素である。

2-3 表層地質の垂直分布について

2-3-1 沖積地および丘陵地

大阪府は、中央部に大阪平野が広く発達し、表層部は沖積層が30m前後(厚い所で)みられ、それ以下には段丘相当層や大阪層群が厚く分布する。大阪平野部で基盤岩類(領家花崗岩類)に達したものは、OD-1号井のみで、深度653.5mにおいてみられる(柱状図参照)。OD-1号井では、深度907mまで掘削されたが、基盤岩類に達しなかった。また岸和田市付近で地下水採取の井戸のデータでは、深度800mを越えても同様に基盤岩類に達していない。これらの調査結果をみると、大阪層群に相当する地層群の下に堆積層が存在するようで、これらの地層群の時代は不明である。周辺部の地質状況から推定すると神戸層群あるいは二上層群に相当するものと思われるが、それを判定する十分な資料がない。現在では、一応先大阪層群として取扱っている。

丘陵部では、大部分が大阪層群で、その周辺部に段丘層がみられる。千里丘陵では大阪層群の下に神戸層群が分布し、基盤岩類は、一部丹波帯の中・古生層の存在が確認されている(吹田市水道局のボーリングデータ)。丘陵部の大阪層群は、基盤岩類(大部分が領家花崗岩類)を直接被覆するものと、基盤岩類との間に先大阪層群・神戸層群・二上層群などを挟在するものがある。

しかし、その分布は殆んど不明である。

大阪府においては大阪地盤図がすでに刊行され、3,000本以上の柱状図が公表されている。今回、本図に記載したボーリング柱状図は昭和40年後において大阪府が直接調査した資料の中からできるだけ深いものを選定し、記入した。また深井戸については、出来る限り層準の判明しているものを中心に選定した。

2-3-2 山地

山地には基盤岩類が分布し、種々の岩相よりなる岩石地盤によって構成されている。国土庁の岩体・岩片の硬軟区分や風化状態についての区分を適用し、分類し得るデータの存在する所もあるが、府下全体となるときわめて困難である。従って、今回は、地質系統・岩質・高度・傾斜度と参照して区分を行った。

花崗岩類は一般に面構造の発達が著しく、風化が進行しているので1arとして取扱った。ミロナイトは破砕が著しいので、同様に1arとした。神戸層群は堆積岩系よりなり、新鮮な岩石では軟岩に属するが、風化すると土砂となる。

神戸層群の堆積岩は種々の岩相がみられ、塊状の砂岩や凝灰岩の一部は硬岩に属するものも存在するが、各層の層厚が薄いので、今回の縮尺では区分できず、1aとした。神戸層群の風化深度は一般に中程度(β)として取扱った。二上層群は火山岩類が多く、堆積岩も挟在するが、ここでは火山岩類を対象に区分を行い、2b β として取扱った。

和泉層群は泥岩・砂岩・礫岩の互層で、風化に対する抵抗力が異なる。特に泥岩部は風化して泥状となる。和泉層群の中で、泥岩が厚く発達した地帯や泥岩の優勢な砂岩との互層部では、風化を中程度(β)と

して区分し、他の岩相については風化深度を浅い(α)として区分した。岩石の硬さは、いずれも軟岩あるいは中硬岩に属するので2bとした。

丹波帯の中・古生層は、泥岩・砂岩が大部分で、一部にチャートや輝緑凝灰岩を挟在する。泥岩を除き、いずれも硬岩に属する。また、泥岩は風化に対する抵抗力が弱い。従って泥質部は2b β とし、他はすべて3c α として取扱った。

流紋岩質の火山岩類は、風化に対する抵抗が大きく、岩石もきわめて堅硬である。3c α として取扱った。生駒山地に分布する斑れい岩は、新鮮なものはきわめて堅硬であるが、山頂部はかなり風化が進み、風化深度が大きい。従って3c β として取扱った。

以上が山地での岩石地盤の区分であるが、十分な資料が不足しているので、一括せざるを得なかった。

中世古 幸次郎 (大阪大学教養部)

中 川 要之助 (同志社大学工学部)

3 土壌統群の分布とその性状および生産力可能性等の概要

大阪府における土壌は、大土壌群 9 種、土壌統群 22 種に分類され、その内訳は次のとおりである。

土 壌 統 群 一 覧 表

大 土 壌 群	土 壌 統 群
岩 石 地	岩 石 地
未 熟 土	残積性未熟土壌
	砂州未熟土壌
黒 ボ ク 土	黒ボク土壌
	多湿黒ボク土壌
褐 色 森 林 土	乾性褐色森林土壌
	〃 (黄褐色)
	〃 (赤褐色)
	褐色森林土壌
	〃 (黄褐色)
	〃 (赤褐色)
赤 黄 色 土	赤色土壌
	黄色土壌
灰 色 台 地 土	灰色台地土壌
褐 色 低 地 土	褐色低地土壌
	粗粒褐色低地土壌
灰 色 低 地 土	細粒灰色低地土壌
	灰色低地土壌
	粗粒灰色低地土壌
グ ラ イ 土	細粒グライ土壌
	グライ土壌
	粗粒グライ土壌

これらの大土壌群、土壌統群の分布面積を市町村別および地域別に示すと、統計の部の 2-5 表のとおりである。

以下に各種土壌の分布と性状および生産力可能性等について、はじめに府下の林地および農地のそれぞれをとおしての概要を述べ、ついで地域ごとの土壌の特徴について略説する。土壌分類名として○○○土と記したものは大土壌群名、○○○土壌としたものは土壌統群名を示している。

なお、市街地のほか、公園、墓地、ゴルフ場などの緑地、土とり場、造成中宅地などの人工改変地は、土壌分類の対象とせず未区分地とした。

3-1 林地土壌の概要

府下の林地には分布の大きさの順に、褐色森林土（林地の89.6%）、未熟土（8.9%）、赤黄色土（0.6%）、岩石地（0.6%）、黒ボク土（0.3%）の5種の大土壌群と10種の土壌統群が存在する。

林地の大部分を占める褐色森林土は、温暖多雨の気候下に生成し我国の中央部に広く分布する標準的な林地土壌であり、地形の相違による水分供給の多少に関係して、乾性褐色森林土壌と（適潤性）褐色森林土壌とに分けられ、さらにそれぞれにおいて表土の下層の色調によって、下層土が褐色味の強い標準型のもの（褐色森林土の40%）のほか、黄味をおびる黄褐系（35%）と赤味をおびる赤褐系（25%）のものを分けている。林地としての一般的な生産力は、乾性のもより適潤性のもので当然高く、また黄褐系、赤褐系土壌は標準型のもより低いとみなしうる。褐色森林土壌（標準型）は、南東部から南部につづく花崗岩地帯と北部の中古生層地帯に広く分布し、府下の美林地帯を形成している。南部北部ともに東より西へ向って乾性のもので比率が増加し、一般に生産力は低くなる。黄褐系の褐色森林土壌は、金剛山系および和泉山脈の低山部から丘陵部にかけて、また生駒山系北部の花崗岩地帯など、各所に広く分布しているが、これとは対照的に赤褐系のは、能勢およびその南部の北摂山地に集中して存在し、枚方市北部などを除いて中南部にはほとんど出現しない。

褐色森林土について多くみられる未熟土は、主として泉南地区の和泉砂岩および酸性火砕岩地帯に分布する残積性未熟土壌で、母材の性質も関係して土壌表層が侵食をうけ、表層土が浅く下層土の風化の程度も少なく、一般に生産力は劣る。

林地の赤黄色土は赤色土壌のみであるが、これは下層土が赤褐～明赤褐色と赤味が強く、表層土も概して腐植の少ない土壌で、主として更新世の高温期に赤色風化をうけた土壌が安定な地形面に残存したものとみなされており、生産力は一般に低い。府下では能勢地区、北摂山地の一部などに塊状で散在し、生駒山の頂部ではやまとまって存在している。

岩石地は、前述の泉南地区の未熟土中に点在するいわゆる「禿地」で、主として尾根筋の表層が著しい侵食をうけ基岩の露出しているものをいう。土壌図作成上点在するものをまとめたため、表示に多少の誇張はまぬかれない。

分布量はわずかであるが、府下にも黒ボク土が存在する。腐植の量が多く暗褐色～黒色の土層をもつ土壌で、その成因については諸説があるが、一般には火山灰と密接な関係をもつ母材に草原性の植物などからくる多量の有機物が集積したものと考えられている。能勢地区の東部に比較的まとまって分布し、山麓部のは厚い黒色土層をもつ。ほかに北部の鴻応山南麓にやっ広く、また南東部、南部の大和葛城山、金剛山、三国山、和泉葛城山の山頂部に小面積分布している。

3-2 農地土壌の概要

府下の農地には分布の大きさの順に、赤黄色土（農地の25.4%）、灰色台地土（24.2%）、灰色低地土（23.5%）、グライ土（10.1%）、褐色低地土（7.5%）、褐色森林土（6.9%）、未熟土（2.0%）、黒ボク土（0.3%）の8種の大土壌群と19種の土壌統群が存在し、はじめの3種のそれぞれが農地の約 $\frac{1}{4}$ の面積を占める。

まず赤黄色土のほとんど（98%）は黄色土壌であって、これは丘陵、台地に分布し作土下の土色が黄褐～黄味をおびる。一般に粘質土壌が多く理化学性が劣り、酸性を示すものが多い。水田、畑および樹園地として利用されている。生産力は中程度以下であるが、水田には肥沃度の高いものもみられる。泉州地域

に多く存在し、大阪層群や花崗岩質の残積、崩積地などに分布している。

灰色台地土は、その大部分が泉州地域でみられ、主として先の黄色土壌よりも低い台地、丘陵地にまた山地の谷底平地にも分布している。この土壌は作土下の土色が灰～灰褐色を呈する粘質および一部壤質のものであるが、排水良好で溶脱が進み下層に各種の斑紋がみられる。主として水田として利用されるが、生産力は次の低地土よりは劣っている。

灰色低地土は、沖積低地に分布する土壌であるが、地下水位が比較的深く前の台地土と同様作土下の土層が灰～灰褐色を示すものをい、この土壌でも物質移動により断面に各種の斑紋をもつことが多い。府下では中部以北により多く存在し水田として利用される。生産力は比較的高いが一部の粗粒質のものは劣る。

グライ土は、やはり沖積低地に存在するものであるが、地下水位が高く、作土の下層に鉄の還元によって呈される灰青色をおびた土層いわゆるグライ層をもつ土壌である。府下では東大阪地域に多く分布し、水田として利用されるが粘質のものが多く生産力は中程度である。

褐色低地土は、谷底平地、扇状地および自然堤防など先の2つの低地土にくらべてや、高い地形面に存在する。作土下の土層が黄褐色をおびる土壌で、能勢地区、泉南地区を中心に分布する。府下では砂質のものが多く、主として水田に一部は花木畑として利用され、生産力は中ないしや、劣っている。

農地として利用される未熟土は、東部の二上層群地帯と北部の能勢地区にみられ、樹園地などに利用されているが生産力は劣る。

褐色森林土の農地は、主として南部、南東部の黄褐色のものにみられ、能勢地区の赤褐色土壌にも一部存在して、樹園地、畑として利用されており、生産力は中程度である。

農地としての黒ボク土は能勢地区に限られ、山間丘陵地の山麓部でかなり層の厚いものか、クリ園などに利用されており良質のものを産する。またごくわずかな面積であるが、箕面市には多湿黒ボク土壌の水田がみられる。

なお非農地の低地土壌である淀川の河川敷は、砂州未熟土壌として分類した。高水敷のものは低水敷のそれより風化が進んでいる。

3-3 地域別の土壌の概要

3-3-1 大阪市地域の土壌

はやくから市街地化が進み、現在農地として分類される面積は少ない。灰色台地土、灰色低地土、グライ土に属する水田および畑が、東部から南東部へかけての周辺部でみられる。林地は存在しない。

3-3-2 北大阪地域の土壌

この地域は淀川以北で大阪市域を除くものをいう。

林地土壌の面積は他の地域に比してもっとも大きい、その大部分は高槻市北部から茨木市へかけての中古生層地帯などに分布する標準型の褐色森林土壌（乾性、適潤性のものをあわせる、林地面積の31%）、能勢町およびその南部に広く分布する赤褐色系褐色森林土壌（同前、57%）で占められ、ついでそれらの南の大阪層群の丘陵地などに、黄褐色系褐色森林土壌（同前、12%）が不連続に存在している。赤褐色の土壌は、府下ではほとんどこの地域のみ分布しており、また小面積ではあるが赤色土壌が広く点在していることが、この地域の特徴である。スギ、ヒノキ、アガマツ、クロマツ、クスギが多く、生産性は北西部の標準型褐色森林土壌地帯でより高い。吹田市、島本町には他地域に比してまとまった竹林が存在している。黒ボク土壌が府下では多くみられるのもこの地域の特徴で、能勢町東部の歌垣山西麓などおよび東

能勢村北部の鴻応山南麓に、京都府の亀岡地区に広く分布する、黒ボク土壌について、黒色土層のかなり厚いものが存在し、一部はクリ園として利用されている。

農地土壌では、灰色低地土（農地の40%）がもっとも多く、これに褐色低地土（17%）、赤黄色土中の黄色土壌（13%）、グライ土（13%）がほとんどが、ほかに岩石を除く8種の大土壌群の全部が農地として存在している。また褐色低地土が多く分布するのもこの地域の特徴で、山地に介在する谷底平地、自然堤防などがよく開かれている。水稻の生産性は、能勢町、箕面市、東能勢村などでやゝ高いが、地域全体ではほぼ府下平均に近い。能勢町西部には細粒灰色低地土壌を中心に鉄欠乏を主とした老朽化水田が多く、箕面市、茨木市の灰色低地土壌にもその分布が広がっている。樹園地としてはクリのほかに植木花木の栽培が広く行なわれている。

3-3-3 東大阪地域の土壌

この地域は淀川以南、大和川以北のうち大阪市域を除くものをいゝ、旧北河内郡、中河内郡の区画に相当する。

林地土壌の面積は大阪市を除く4地域中もっとも小さいが、そのほとんど（林地98%）はやはり褐色森林土であり、またその大部分（76%）が黄褐色系の土壌（乾性、適潤性をあわせる）として存在する。標準型の褐色森林土壌（同前）は生駒山の西麓から山系の南部にかけて若干面積（17%）分布しているが、北大阪地域のそれにくらべると侵食地形と関連して乾性のもの比率が高い。また枚方市北東部の大阪府層郡丘陵地には、赤褐色系の乾性褐色森林土壌が小面積存在している。この土壌は北大阪地域には広く分布しているが、府下の中南部にはこの枚方のもとの次の生駒山のもの以外には出現しない。生駒山の頂上周辺の下部にはやはり赤褐色系森林褐色土壌が存在するが、これは頂上周辺の赤色土壌（下記）が混入崩積して生成した局所的性質のものであると考えられる。生駒山頂を中心にしたはんれい岩地帯には、南北にわたって赤色土壌が分布する。北大阪地域にみられるような、比較的安定な地形面に点在する赤色土壌にくらべると、生駒山ではやゝまとまった面積で赤色土壌が存在し、この場合その成因には母材である塩基性岩石が関係するものと考えられる。また二上層群北端に位置する柏原市の芝山にも玄武岩質安山岩を母材とする彩度の高い赤色土壌が小面積存在する。林木としてはアカマツ、クロマツ、コナラ、クスギが主なものであるが、それらの生産性は他の3地域より一般に劣っている。

農地土壌では、北大阪地域と同じく灰色低地土がもっとも多い（農地の40%）が、これについて赤黄色土中の黄色土壌（27%）、グライ土（24%）もかなり広く分布し、他の大土壌群の比率は少ない。この地域は大阪市について市街地化の波を大きくうけ、残存する農地が少なくなっているが、かつては多収種米作を誇った地帯で、大阪府が戦前数回にわたって全国での最高収量をあげた実績をもつのは、この地域を含む大阪平野の肥沃性によるものであった。しかし戦後は有機物添加量の激減、化学肥料の多施用、土壌改良意欲の低下などが関係して、水田の生産性は大阪市とともに府下での平均をかなり下まわっている。たゞ裏作のたまねぎには、枚方市をはじめ北部地区ではかなりの収量をあげている。この地域の残存農地には低湿地が多く、それだけに府下での過湿水田、重粘土水田の集中分布地帯となっている。

3-3-4 南河内地域の土壌

この地域は旧南河内郡の区画に相当する。

林地土壌の面積は、北大阪地域よりは少ないが、次の泉州地域とほぼならんでいる。そして前述の2地域と同様、そのほとんどが褐色森林土（林地の98%）であるが、そのうちの75%が生産力の比較的高い標準型の褐色森林土壌（乾性、適潤性をあわせて）であることは、他の地域にくらべて（北大阪31%、東大阪27%、泉州17%）この地域が府下での重要な林木生産地であることを示している。たゞこの地域の標準型褐色森林土壌中には局所的にすぐれた美林を含んでいるが、この土壌平均の生産力として

は、北大阪地域高槻市北部にあるものよりやや低いものと考えられる。低山部の花崗岩地帯から大阪層群丘陵にかけては、黄褐色褐色森林土壌が分布し、また羽曳野市の二上層群西麓には未熟土壌が小面積存在して、それらの一部は果樹園（ブドウ、ミカン）として利用されている。また大和葛城山、金剛山の山頂付近には、黒ボク土壌がわずかの面積ながら分布している。林地面積の多いのは河内長野市、千早赤阪村、河南町で、こゝではスギ、ヒノキ、アカマツ、クヌギなど各種のものが生産され、それより北側の市町村ではクロマツ、アカマツなどが主として分布している。

農地土壌では、前述の2地域とは異なって灰色台地土がもっとも多く（農地の35%）、黄色土壌（25%）、灰色低地土（16%）、グライ土（12%）がこれにつづいている。この地域は府下で最大の農業地帯であり、藤井寺市、羽曳野市、富田林市は現在府下でもっとも未作収量が高く、この地域全体の平均も府下の5地域中もっとも高い。（各地域の全体で算出した昭和47～49年の平均水稻収穫量率、すなわち大阪府平均を100としたときの比率は、大阪市91、北大阪100、東大阪94、南河内106、泉州101となる。）たゞこの地域では、大阪層群丘陵地に存在する水田に砂質、礫質土壌のものが多く、鉄、ケイ酸の溶脱が行なわれて老朽化しているところが広くみられる。またこの地域の畑地では、ナス、イチゴを中心に果菜類の生産量が大きいのも特徴である。林地土壌のところでも触れたように、黄褐色褐色森林土壌残積性未熟土壌の地帯では、ブドウ、ミカン、イチヂクが栽培され、とくに前者の面積は府下ではこの地域に集中している。

3-3-5 泉州地域の土壌

この地域は旧泉北部、泉南郡の区画に相当する。

林地土壌の面積は、先の南河内地域と匹敵するが、前述の3地域とは異なって、褐色森林土の比率は林地の70%と比較的低く、他に28%を占める残積性未熟土壌が、泉南の和泉層群および酸性火砕岩地帯に分布している。この土壌は砂岩などを母材とすることも関係して、侵食の影響が大きく表層土の発達未熟で、生産力も劣っている。またこの未熟土山地の尾根筋では、土壌表層が著しく侵食をうけて失われ、基岩の露出しているところが各所に点在しており、これは岩石地として分類したが地図表示にもとづく面積計測ではやや過大結果を示す可能性もある。先の褐色森林土のうち、黄褐色のもの比率は73%と東大阪地域と同様に高い。標準型の褐色森林土壌は、和泉市、岸和田市、貝塚市の南部の山地に分布しているが、他地域のものに比して乾性のもの比率が高い。未熟土地帯の泉南地区では、アカマツ、クロマツが主で生産力は低いが、褐色森林土地帯ではこれにスギ、ヒノキが加わり、南河内地域につぐ生産力を示している。

農地土壌では、前の南河内地域と同様に灰色台地土（農地の39%）と黄色土壌（30%）が広く分布し、灰色低地土（11%）と褐色森林土（8%）がこれにつづいている。この地域の米作収穫量率は、前述したように府下平均よりやや上まわっている。堺市は近年市街地化の速度が増してきているが、現在府下でもっとも農地の多い市町村であって、灰色低地土の分布も多く水稻作のほか軟弱野菜の輪作栽培の盛なことが特徴である。岸和田市をはじめとしてそれ以南の灰色台地土壌地帯では、鉄、ケイ酸欠乏による老朽化水田が広く分布している。和泉市、岸和田市などの黄褐色褐色森林土壌および黄色土壌地帯は府下最大のみかん生産地として知られており、また岸和田市以南にはたまねぎの栽培面積が集中してその生産性は高い。

なお府下の林地土壌に関する資料が不足していたため、本稿執筆者および共同作業
者（大阪府農林技術センター吉村修一、京都大学農学部古川久雄）のほかに

小島俊郎（農林省林業試験場関西支場） 吉岡二郎（農林省林業試験場関西支場）

服部共生（京都府立大学農学部）

西村直彬（大阪府農林部）

の各氏の参加を得た土壌調査グループによって、昭和49年7月に林地土壌の現地調査を行なった。本調査およびそのとりまとめにあたり御援助、御教示をいただいた上の各位に深謝する次第である。

駒井 豊（大阪府立大学農学部）

出浦 隆一郎（ " " ）

4 土地利用現況等の概要

4-1 土地利用現況の概要

総 説

本府は、その西側南半分を大阪湾に面し、西側北半分は兵庫県、北側は京都府に、また東側は生駒、葛城の山脈をへだてて奈良県と、南側は和泉山脈を境として和歌山県と、それぞれ接している。

面積的にみると、府土の面積は、国土面積約37万 km^2 の0.5%にあたる、855 km^2 にすぎず、47都道府県中最小である。

地形別にみると、山地が約30%、丘陵が約20%、台地が約20%、残りが低地となっている。

山地は、東部および東南部に生駒山脈、金剛山脈が走り、生駒山、葛城山等がこれに属している。南部には、和泉山脈があり、支山脈が東西に走り、岩湧山、槇尾山等の諸山が起伏し、北部には、中国山脈の東端が南へのびて、妙見山、剣尾山をようしている。

主な河川には、淀川と大和川がある。淀川はその源を琵琶湖に発し、本府東北部に入り、大阪市の北部を流れ、大阪湾に注いでいる。大和川は、奈良県に発し、金剛山と生駒山の間を流下し府内に入り、大阪市南部、堺市等を縫って大阪湾に注いでいる。

平地部は、上記の山々に囲まれ、主に淀川、大和川の堆積作用によってできた大阪平野が主であり、大阪市部の上町台地一帯を除き、概して低湿地である。

本府は、この大阪平野を中心に開け、市街地化が進んでおり、平野部に多く存在する農地は、その減少の傾向は激しい。土地利用の状況も、市街地的な要素が強く、農、草、林地以外の都市的な用途に利用されているものが、府土面積の52%にあたる970 km^2 をしめる。またDID区域の面積は、594 km^2 をしめ、府土の32%にあたる。

さらに、都市的な整備をめざす都市計画区域には92%にあたる区域が指定されており、そのうち862 km^2 が市街化区域に定められ、これは、都市計画区域の50%にあたる。

土地利用現況をみると、農地は年々減少の傾向にあるが、256 km^2 の面積を有する。その利用状況は出が大半であり、樹園地、普通畑がそれにつづく。

林地についてみると、三方を山地に囲まれているため、面積も626 km^2 あり、府土の約1/3をしめるが、その状況は人工林、天然林の構成が、ほぼ同数である。

草地については、ほとんどみるべきものがない。

気象は、山岳と海洋の影響をうけ、年平均気温では、海岸地帯が最も高く16°C内外を記録し、平地部では15°C台、山麓地帯では13°C内外、山岳地帯では11°C台である。また、本府は西日本でも比較的雨量の少ない地域に属し、年平均の分布状況をみると、平地で1200~1300mm、山間部に入るにしたがって次第に増加し1400~1500mmとなるが、最も多い豊能地域北部でも1600mm程度で、府下を通じて的地域的变化は大きくない。時期的には、4月下旬を中心とする春雨、6月下旬を中心とする梅雨9月下旬を中心とする台風時に集中して降る傾向がある。

風の影響は、海岸部を除き比較的少なく、風向はおおむね春、秋には北ないし北東から、夏、冬には西ないし南西からの度合いが大きい。

地域別概況

4-1-1 大阪市地域

大阪市地域は、大阪都市圏の中核として、業務機能が高度に集中し、活発な産業活動が展開されている

が、さまざまな都市問題を内在している。

地域の土地利用の現況も、ごく少量の農地への利用があるもののわずか2%程度であり、都市的利用に特化している。

4-1-2 北大阪地域

本地域は、府域うち淀川より北部に位置する地域で、豊能地域と三島地域からなる。両地域とも、その北部は北摂山系を中心とする山地であり、南部は淀川石岸にひらけた平地である。

豊能地域は、北部山地では過疎的な地域もあるが近年には住宅開発が著しく、その南部の平地帯は古くから西国街道沿いに開け、現在では、過密状態であり、兵庫県との境には大阪国際空港が存する。

三島地域は、古くから京阪神の交通の要衝として栄えたところであるが、近代的な工場や、千里ニュータウンをはじめとする大小住宅地が開発されている。

北大阪地域における土地利用の現況は、全面積489haのうち47%をしめる231haが林地、10%にあたる47haが農地であり残りのほとんど全部が宅地および公共用地・その他であり、草地は僅少である。林地の状況は天然林が2/3をしめ、農地では田としての利用が大半である。

4-1-3 東大阪地域

この地域は、西を大阪市、東を生駒山系、北を淀川、南を大和川によって囲まれた地域で、北河内地域、中河内地域からなる。

北河内地域は、淀川左岸に位置するため古くから淀川の水運によって栄えたところであるが、現在では弱電メーカー、繊維、機械金属工場等が分布している。また農地の宅地への転用は府下随一の激しさをみせており、住工混在のスプロール現象を生じているところもある。

中河内地域は、古くから奈良街道や高野街道沿いに開けた商工業地として、また大和川のつけ替えにより生れた新田を中心とする農村として発展してきたところである。この地域も他地域と同様、市街地化特に宅地化が進んでいるが、従来から低湿地であること、地盤沈下地帯であることなどから、その新市街地の浸水被害が深刻な課題となっている。また中河内地域の南端には、地方空港の一つである八尾空港が存する。

東大阪地域の土地利用の現況は、全面積304haのうち15%をしめる46haが農地、21%をしめる63haが林地であり、残りは宅地および公共用地その他である。農地の利用は、田が大半であり、林地の状況は約7割が天然林である。

4-1-4 南河内地域

この地域は、府の東南部に位置し、その東部および南部には、府下最高峰の金剛山をよする国定公園の金剛生駒山系が、奈良、和歌山と境をなしている。ここには、竹内街道や、京、紀州と結ぶ東および西高野街道があり、わが国の文化発祥の地として栄え、古墳群、名所、旧跡なども数多く分布している。この地域も他地域と同じく、最近急激な宅地開発の波がおしよせてきており、自然環境の保全との調和が課題となっている。

この地域の土地利用状況は、全面積304haのうち、18%の56haが農地、46%の140haが林地であり、草地はほとんどなく、残りは、宅地および公共用地その他である。農地の利用状況は、その7割が田であり残りは畑であるが、畑の中ではほとんどが樹園地として利用されている。森地の状態は、その63%をしめるところが人工林である。

4-1-5 泉州地域

この地域は、府域のうち、大和川以南の地域であり、古くは和泉国といわれ、さらに大津川付近で泉北、泉南の二つの地域に分けられる。

泉北地域は、中央丘陵部から紀泉高原を背後にひかえ、平地は大阪湾にそって開けている。この地域は、中世の自由都市界に代表されるよう、古くから発展したところであり、平坦部では、長い伝統をもつ繊維工業や自転車、刃物等の鉄鋼業が発展し、山間部では、温州みかんをはじめとする果樹園芸が盛んである。またこの地域には、府が造成した臨海工業地帯と、泉北ニュータウンが存する。

泉南地域は、その南部に和泉葛城山系を有し、和歌山県と接しているが、その山地部と大阪湾にはさまれる平地部が狭小であるため、水の便が悪く、府下随一のため池の分布地域である。産業的には、府下一番のみかん、たまねぎを中心とする農業が盛んな地域でもある。

泉州地域の土地利用の現況は、全面積 552 ㎏ のうち、18%の 102 ㎏ が農地、35%の 193 ㎏ が林地、1%にあたる 3 ㎏ が草地であり、残り 46%の 254 ㎏ が宅地および公共用地、その他である。この地域の農地、林地のしめる割合が、府下の他地域に比べてかなり大きいところである。

農地の利用状況は田への利用が約 7 割をしめ、畑利用のうち約 8 割が樹園地として利用されている。林地の状態はその約 53% が人工林である。

4 - 2 土地利用可能性分級の概要

府下の面積 1,855 ㎏ の土地利用可能性分級の地域別面積は表 - A のとおりである。8 類地は市街地、公園緑地、古墳、水面等の土壌未区分地であるが府面積の約 40% になる。(この部分の概要は 1 - 2 表で示している)ここではそれ以外の、土壌を区分した地域(農地、林地、2 類地~7 類地、以下区分地と記す)についての概要をのべる。なお、土壌生産力可能性区分で 1 等級(P₁)になる地域は図示単位以下の分布であるため図上に表示されていない。したがって 1 類地に相当する類地は区分せず 2 類地以下に含めた。

4 - 2 - 1 類地別概要

2 類地:

区分地の 17.3% を占め、府面積の 10.4% にあたる。標高 400 m 以下(H₁地域)にのみ存在し、ほとんど水田として利用されている。土壌統群としては、細粒灰色低地土壌、灰色低地土壌、黄色土壌細粒グライ土壌、グライ土壌、褐色低地土壌等が含まれる。

3 類地:

区分地の 20.7% を占め、府面積の 12.5% である。この類地の 95% は土壌生産力可能性区分 P₃ の土地である。傾斜区分も S₁ が 75% を占めており、低地、台地上の土壌である。現在、水田および樹園地として利用されている。含まれる土壌統群のおもなものは灰色台地土壌、粗粒灰色低地土壌、粗粒グライ土壌、粗粒褐色低地土壌、黄色土壌、黄褐色系褐色森林土壌である。

4 類地:

区分地中最大の面積を占め 40.4% であり、府面積の 24.5% である。傾斜階級別にみると S₄ が約 70% であり主として、小~中起伏山地および山麓地、丘陵地等から成っている。土壌生産力可能性区分別では P₄ が 66% を占め、そのなかの土壌統群としては、残積性未熟土壌、赤褐および黄褐色系褐色森林土壌が主体である。また P₂、P₃ がそれぞれ 18%、17% を占めており、P₂ は褐色森林土壌、P₃ は乾性褐色森林土壌、赤褐および黄褐色系褐色森林土壌が主体である。なお現在は山林および樹園地として利用されている。

5 類地:

区分地の 21% を占め、府面積の 12.7% にあたる。4 類地までの類地と異なり山間地帯(H₂)の占める

割合が大きく約50%である。また山間地帯の類地区分のうち約68%を占めている。傾斜区分別にも74%がS₅であり起伏量の大きい山地を中心とした地帯である。現在ほとんど山林として利用されている。なお山林の場合、傾斜、標高のため、4、5類地などの下位等級に区分される地域が多いが、傾斜の大きいことは森林育成上では必ずしも悪条件とは考えられないので、土地利用可能性の検討に際しては考慮されるべきである。

6 類地：

この区分地は土壌生産力可能性等級のP₅の地帯のみであり、府下では泉南地域の岩石地（禿積地）がこれに相当する。面積は区分地の0.4%であり、府面積の0.2%である。

7 類地：

4°以上の傾斜地であり、大起伏山地の一部がこれに相当する。区分地の0.3%、府面積の0.2%を占めるに過ぎない。

4-2-2 地域別概要

府域を自然および社会経済的要因から、大阪市、北大阪、東大阪、南河内、泉州の5地域に区分した。

1. 大阪市地域

市域の大部分が市街地であり、区分対象面積はわずかで、2、3類地に属する。

2 北大阪地域

各類地の自然条件との関連は表B-1に示すとおりである。本地域は淀川流域、大阪平野北辺部および能勢中央部の水田地帯に2類地が集中しており、3類地は山地間に散存し、比率は小さい。それに反し、4類地の割合が50%と府下5地域のなかでとびぬけて高く、5類地の割合も府平均を7%上まわっている。4類地、5類地のなかには林地生産性の高い褐色森林土壌も高槻市、箕面市などに多く分布し、人工林地としての利用可能性が高い。山間地帯に広く分布する4類地は現在、栗、シイタケ等の栽培が行なわれているほかは、赤松、クスギ、コナラ等の雑木林となっているところが多く、より高度の利用可能性が残されている。

3 東大阪地域

この地域の各類地と自然条件の関連は表B-2に示すとおりである。この地域はほとんど山間地帯(H₂)を含まず、低暖地帯(H₁)が98%を占める。低地では80%以上が2類地であり、府下5地域のなかで2類地の比率がもつとも高い。

2類地はグライ土壌、灰色低地土壌、黄色土壌等から成る水田で戦前は穀倉地帯であったが現在市街化が進んでいる。4類地は生駒山系の大きな部分を占めているが、樹園地、庭園用樹、畑、果菜等の利用可能性が高い。

4. 南河内地域

この地域の各類地と自然条件の関連は表B-3に示すとおりである。この地域は山間地帯(H₂)の占める比率が各地域中最大であり、2類地の割合は最少である。すなわち、条件のよい水田は少なく、丘陵地、山間に位置するもの、砂質のもの等が多い。一方3類地、4類地の割合は大きく、一部水田のほか、樹園地（ブドウ、ミカン）蔬菜地帯として利用可能性が高く現在も利用されている。水田は上記の如くあまり条件はよくないが、南河内地域は現在府下の中心的な農業地帯となっており水稻収穫量率（昭和47、48、49年度平均）も府内の比較では最大である。

森地に関してみると、起伏の大きい山地に褐色森林土が広く分布し、林業上の利用可能性が高く府下有数の林業地帯となっている。

5. 泉州地域

この地域の各類地と自然条件との関連は表B-4に示すとおりである。この地域は主として、台地、丘陵地、山地から成り、低地が少ない。

2類地はこれらの地形をきざんだ河川流域の低地にみられるほか、黄色土壌の水田が一部存在する。当地域に広く分布する台地は3類地に区分され、3類地の占める比率を5地域中最大にしている。この類地の土地利用は水田、樹園地、野菜類の栽培地等である。水田は灰色台地土壌、樹園地は黄色土壌または黄褐系褐色森林土壌である。4類地は丘陵地および小起伏山地から成り、北部は樹園地としての利用可能性が大きい、南部は残積性未熟土壌地帯が広く存在し利用可能性が低い。また残積性未熟土壌地帯には禿藪地帯が多く、土壌保全対策が必要である。5類地は山間地帯(H2)がおもな部分であるが褐色森林土地帯であり、林業上の利用可能性が大きい。

出 浦 隆一郎 (大阪府立大学農学部)

駒 井 豊 (" ")

A 土地利用可能性分級地域別面積

		2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	2～7 類地計	8 類地	合 計
府 計		193.5	232.1	453.6	235.4	4.3	3.3	1,121.1	73.4	1,855.1
地 域 別	大阪市	1.9	5.1					7.0	197.5	204.5
	地域	(27.1)	(72.9)					(100)		
	北大阪	48.1	34.2	172.3	92.8	0	0.6	348.3	141.8	490.1
	"	(13.8)	(9.8)	(49.5)	(26.6)		(0.2)	(100)		
	東大阪	63.8	21.0	50.8	12.4	0	0	147.9	158.1	306.0
	"	(43.1)	(14.2)	(34.4)	(8.4)			(100)		
	南河内	29.4	50.2	83.3	65.7	0	1.7	230.3	72.5	302.8
	"	(12.8)	(21.8)	(36.2)	(28.5)		(0.7)	(100)		
泉 州	50.4	121.5	146.8	64.6	4.3	1.0	29.6	163.1	551.6	
"	(13.0)	(31.3)	(37.8)	(16.6)	(1.1)	(0.2)	(100)			

()内は%

B-1 土地利用可能性分級と自然条件との関連
(北大阪地域)

類地		標高		傾斜		土壌生産力可能性等級			
区分	面積	区分	面積	区分	面積	区分	面積		
2	48.0	H1	49.9	S1	42.9	P2	48.0		
		H2	—	S2	5.1				
3	34.2	H1	36.0	S1	16.7	P2	6.9		
		H2	3.3	S2	7.1				
4	172.3	H1	146.1	S3	10.5	P3	32.4		
				S1	8.4				
				S2	14.4				
				S3	21.1				
5	92.8	H2	26.6	S4	128.9	P4	93.4		
				S1	—				
6	—	H1	57.7	S2	1.5	P2	19.6		
				S3	8.1				
7	0.6	H2	35.1	S4	31.5	P3	13.6		
				S5	51.7				
計	348.5	H1	290.1	S6	0.6	P4	59.6		
				H2	65.3			S1	68.0
				S2	28.1	S5	51.7	P3	84.4
				S3	39.7	S6	0.6	P4	153.1

B-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連
(東大阪地域)

類地		標高		傾斜		土壌生産力可能性等級	
区分	面積	区分	面積	区分	面積	区分	面積
2	63.8	H1	63.8	S1	60.4	P2	63.8
		H2	—	S2	3.4		
3	21.0	H1	21.0	S1	13.1	P2	1.2
		H2	—	S2	3.7		
4	50.8	H1	51.0	S3	4.3	P3	19.8
				S1	2.7		
				S2	9.1		
				S3	8.5		
5	12.4	H2	3.6	S4	30.6	P4	40.6
				S1	0		
6	0	H1	8.7	S2	0	P2	2.0
				S3	1.5		
7	0	H2	3.6	S4	1.9	P3	0.7
				S5	9.1		
計	148.1	H1	144.3	S1	76.2	P4	50.3
				H2	3.6		
				S3	14.3	P3	27.0
				S4	32.5		
				S5	9.1		

B. 統 計 の 部

1. 土 地 利

1 - 1 土地利用現況別面積市町村別内訳

区 分	農 地										草 地					
	田			畑						農 地 計	利 用 草 地			未 利 用 草 地 (原 野)	草 地 計	
	普 通 田	特 殊 田	計	普 通 畑	牧 草 畑	樹 園 地			計		永 年 牧 草 地	自 然 草 地	計			
						果 樹 園	桑 園 ・ 茶 畑 他	計								
大 阪 市	413	2	415	24	—	1	—	1	25	440	—	—	—	—	—	
北 大 阪	豊中市	333	—	333	11	—	35	—	35	46	379	—	—	—	—	
	池田市	116	—	116	11	—	31	—	31	42	158	—	—	—	—	
	箕面市	300	—	300	10	—	69	—	69	79	379	—	—	—	—	
	東能勢村	286	—	286	29	—	45	—	45	74	360	—	—	—	—	
	能勢町	931	—	931	34	5	303	—	303	342	1,273	—	10	10	—	10
	吹田市	72	—	97	1	—	2	—	2	3	100	—	—	—	—	—
	高槻市	832	—	932	4	—	11	—	11	15	847	—	—	—	—	—
	茨木市	897	—	897	7	—	12	—	12	19	916	—	—	—	—	—
	摂津市	249	—	249	—	—	—	—	—	—	249	—	—	—	—	—
	島本町	52	—	52	1	—	19	—	19	20	72	—	—	—	—	—
小 計	4,093	—	4,093	108	5	527	—	527	640	4,733	—	10	10	—	10	
東 大 阪	守口市	65	2	67	—	—	—	—	—	—	67	—	—	—	—	
	枚方市	850	—	850	27	—	19	—	19	46	896	—	—	—	—	
	寝屋川市	406	1	407	16	—	6	—	6	22	429	—	—	—	—	
	大東市	275	3	278	3	—	—	—	—	3	281	—	—	—	—	
	門真市	183	16	199	—	—	—	—	—	—	199	—	—	—	—	
	四条畷市	191	—	191	4	—	—	—	—	4	195	—	—	—	—	
	交野市	317	—	317	14	—	18	—	18	32	349	—	—	—	—	
	八尾市	684	—	684	116	—	41	—	41	157	841	—	—	—	—	
	柏原市	191	—	191	6	—	355	—	355	361	552	—	—	—	—	
	東大阪市	258	—	758	19	—	7	—	7	26	784	—	—	—	—	
小 計	3,920	22	3,942	161	—	446	—	446	651	4,593	—	—	—	—		

用 現 況

林 地												宅 地	公 共 用 地 其 他	合 計
人 工 林			天 然 林			竹 林	未 立 木 地			除 地	林 地			
針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計		採 草 放 牧 に 利 用	そ の 他	計					
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15,455	4,711	20,606
2	—	2	44	4	48	31	—	—	—	—	81	2,327	873	3,660
30	120	150	548	106	654	20	—	7	7	—	831	741	443	2,173
767	542	1,309	1,241	418	1,659	44	—	24	24	27	3,063	796	597	4,835
727	603	1,330	827	474	1,301	70	—	19	19	—	2,720	98	269	3,447
936	1,299	2,235	3,822	1,810	5,632	55	—	87	87	—	8,009	217	347	9,856
—	—	—	1	1	2	29	—	—	—	—	31	2,023	1,506	3,660
1,394	189	1,583	2,133	1,020	3,153	146	6	19	25	22	4,929	2,064	2,655	10,495
256	36	292	1,506	665	2,171	106	—	19	19	6	2,594	1,615	2,390	7,515
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	666	656	1,571
16	1	17	418	248	666	108	—	11	11	1	803	228	579	1,682
4,128	2,790	6,918	10,540	4,746	15,286	609	6	186	192	56	23,061	10,005	10,295	48,874
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	795	451	1,313
135	52	187	541	128	669	123	—	9	9	—	988	2,427	2,141	6,452
15	—	15	18	31	49	57	—	4	4	—	125	1,358	488	2,400
61	142	203	70	178	248	18	—	18	18	—	487	784	275	1,837
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	807	215	1,221
118	58	176	228	419	647	59	—	19	19	1	902	340	453	1,890
217	6	223	410	264	674	49	—	3	3	—	949	346	685	2,529
52	14	66	358	68	426	4	—	60	60	—	556	1,902	827	4,126
76	—	76	635	453	1,088	27	—	23	23	—	1,214	581	130	2,477
232	183	415	115	439	554	15	—	46	46	—	1,030	3,112	1,252	178
906	455	1,361	2,375	1,980	4,355	352	—	182	182	1	1,251	12,662	6,917	30,423

		農 地									草 地					
		田			畑					農 地 計	利 用 草 地			未 利 用 草 地 (原 野)	草 地 計	
		普 通 田	特 殊 田	計	普 通 畑	牧 草 畑	樹 園 地		計		永 年 牧 草 地	自 然 草 地	計			
							果 樹 園	桑 園 ・ 茶 畑 他								
南 河 内	富田林市	783	—	783	3	—	186	—	186	189	972	—	—	—	—	—
	河内長野市	685	—	685	22	—	141	—	141	163	848	—	—	—	—	—
	松原市	488	—	488	19	—	—	—	—	19	507	—	—	—	—	—
	羽曳野市	564	—	564	14	—	326	—	326	340	904	—	2	2	3	5
	藤井寺市	179	—	179	4	—	9	—	9	13	192	—	—	—	—	—
	太子町	195	—	195	3	—	340	—	340	343	538	—	—	—	—	—
	河南町	446	—	446	11	—	125	—	125	136	582	—	—	—	—	—
	千早赤阪村	146	—	146	3	—	218	—	218	221	367	—	—	—	—	—
	狭山町	227	—	227	17	—	40	—	40	57	284	—	—	—	—	—
	美原町	375	—	375	8	—	20	—	20	28	403	—	—	—	—	—
小計	4,088	—	4,088	104	—	1,405	—	1,405	1,509	5,597	—	2	2	3	5	
泉 州	堺市	1,680	—	1,680	437	—	81	—	81	518	2,198	—	35	35	—	35
	泉大津市	142	—	142	8	—	—	—	—	8	150	—	—	—	—	—
	和泉市	814	—	814	60	—	1,300	—	1,300	1,360	2,174	—	—	—	302	302
	高石市	101	—	101	5	—	—	—	—	5	106	—	—	—	—	—
	忠岡町	49	—	49	5	—	—	—	—	5	54	—	—	—	—	—
	岸和田市	1,010	—	1,010	33	—	863	—	863	896	1,906	—	—	—	—	—
	貝塚市	565	—	565	27	—	259	—	259	286	851	—	—	—	—	—
	泉佐野市	886	—	886	4	—	33	—	33	37	923	—	—	—	—	—
	泉南市	594	—	594	2	—	124	—	124	126	720	—	—	—	—	—
	熊取町	319	—	319	7	—	44	—	44	51	370	—	—	—	—	—
	田尻町	73	—	73	1	—	—	—	—	1	74	—	—	—	—	—
	岬町	211	—	211	13	—	11	—	11	24	235	—	—	—	—	—
	阪南町	389	—	389	9	—	29	—	29	38	427	—	—	—	—	—
小計	6,833	—	6,833	611	—	2,744	—	2,744	3,355	10,188	—	35	35	302	337	
府 総 計	19,347	24	19,371	1,008	5	5,123	—	5,123	6,180	25,551	—	47	47	315	352	

林 地											宅 地	公 共 用 地 そ の 他	合 計	
人 工 林			天 然 林			竹 林	未 立 木 地			除 地				林 地
針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計		採 草 放 牧 に 利 用	そ の 他	計					
173	58	231	389	37	426	31	—	19	19	—	707	1,196	1,092	3,967
4,517	368	4,885	1,037	1,730	2,767	102	—	53	53	—	7,807	1,131	1,174	10,960
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	751	400	1,658
227	—	227	111	—	111	5	—	4	4	—	347	699	745	2,700
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	438	240	870
124	—	124	347	53	400	8	—	51	51	—	583	111	191	1,423
429	178	607	311	352	663	43	—	6	6	—	1,319	212	435	2,548
2,383	270	2,653	35	263	298	70	—	56	56	2	3,079	190	77	3,713
23	—	23	5	—	5	1	—	1	1	—	30	473	418	1,205
97	—	97	—	—	—	3	—	—	—	—	100	434	400	1,337
7,973	874	8,847	2,235	2,435	4,670	263	—	190	190	2	13,972	5,635	5,172	30,381
206	1	207	487	35	522	15	—	12	12	—	756	6,507	3,722	13,218
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	754	157	1,061
1,836	20	1,856	898	486	1,384	123	—	85	85	—	3,448	1,360	1,260	8,544
—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	1	804	121	1,032
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	217	46	317
1,136	—	1,136	376	255	631	163	—	39	39	—	1,969	1,793	1,329	6,997
854	—	854	654	214	868	79	—	22	22	—	1,823	660	730	4,064
1,003	—	1,003	704	285	989	5	—	144	144	10	2,151	1,067	939	5,080
1,037	1	1,038	614	606	1,220	53	—	28	28	26	2,365	625	739	4,449
472	—	472	133	84	217	17	—	—	—	13	719	367	265	1,721
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	70	68	212
2,240	—	2,240	605	524	6,129	20	—	299	299	37	3,725	361	570	4,891
1,387	—	1,387	650	208	858	6	—	4	4	88	2,343	555	318	3,643
10,171	22	10,193	5,121	2,698	7,819	481	—	633	633	174	19,300	15,140	10,264	55,229
23,178	4,141	27,319	20,271	11,859	32,130	1,701	6	1,191	1,197	233	62,584	59,667	37,359	185,513

1-2 DID おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

市町村名		市街地の内訳										
		商業区	工業区			住宅地	農林地	その他				
			重工業区	軽工業区	計			漁業区	運輸区	公共区	その他	計
大阪市		2,020	「」	「」	3,196	10,343	24	「」	「」	2,655	2,368	5,023
北 大 阪	豊中市	139	「」	「」	203	1,977	434	「」	「」	678	229	907
	吹田市	142	「」	「」	168	1,651	574	「」	「」	923	202	1,125
	高槻市	87	「」	「」	235	1,301	922	「」	「」	280	115	395
	茨木市	17	「」	「」	173	886	746	「」	「」	140	100	240
	計	385	「」	「」	779	5,815	2,676	「」	「」	2,021	646	2,667
東 大 阪	守口市	57	「」	「」	202	536	74	「」	「」	151	293	444
	枚方市	47	「」	「」	413	1,663	1,562	「」	「」	240	97	337
	寝屋川市	73	「」	「」	231	882	463	「」	「」	210	73	283
	門真市	35	「」	「」	192	463	266	「」	「」	87	113	200
	八尾市	51	「」	「」	432	1,140	669	「」	「」	259	164	423
	東大阪市	105	「」	「」	634	2,306	1,513	「」	「」	364	13	377
計	368	「」	「」	2,104	6,990	4,547	「」	「」	1,311	753	2,064	
南河内												
泉 州	堺市	293	「」	「」	1,738	3,789	1,764	「」	「」	1,059	789	1,848
	岸和田市	82	「」	「」	15	1,017	844	「」	「」	193	449	642
	計	375	「」	「」	1,753	4,806	2,608	「」	「」	1,252	1,274	1,238
合計		3,148	「」	「」	7,832	27,954	9,855	「」	「」	7,239	5,005	12,244

市 街 地 計	市 街 地 外 の 内 訳							合 計
	農 地	草 地	林 地	宅 地	公 共 用 地	そ の 他	計	
20,606	0	0	0	0	0	0	0	20,606
3,660	0	0	0	0	0	0	0	3,660
3,660	0	0	0	0	0	0	0	3,660
2,940	861	43	5,123	623	212	693	7,555	10,495
2,062	1,217	361	3,186	520	67	102	5,453	7,515
12,322	2,078	404	8,309	1,143	279	795	13,008	25,330
1,313	0	0	0	0	0	0	0	1,313
4,022	782	418	694	289	38	299	2,520	6,542
1,932	175	6	63	86	20	118	468	2,400
1,156	35	0	0	19	2	9	65	1,221
2,715	408	0	571	271	91	70	1,411	4,126
4,935	143	0	938	61	54	47	1,243	6,178
16,073	1,543	424	2,266	726	205	543	5,707	21,780
9,432	1,550	217	943	640	106	330	3,786	13,218
2,600	1,725	137	1,918	357	84	176	4,397	6,997
12,032	3,275	354	2,861	997	190	506	8,183	20,215
61,033	6,896	1,182	13,436	2,866	674	1,844	26,898	87,931

2. 自然の土地条件

2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳

市町村		傾斜区分							合計	備考
		0°~3°	3°~8°	8°~15°	15°~20°	20°~30°	30°~40°	40°~		
大 阪 市		206	—	—	—	—	—	—	206	
大 阪	1 豊中市	32	4	1	—	—	—	—	37	
	2 池田市	10	4	2	1	3	2	—	22	
	3 箕面市	13	4	4	5	12	9	1	48	
	4 東能勢村	3	4	8	8	7	4	—	34	
	5 能勢町	11	7	11	17	34	19	—	99	
	6 吹田市	31	4	2	—	—	—	—	37	
	7 高槻市	45	9	7	14	18	12	—	105	
	8 茨木市	33	10	8	13	9	2	—	75	
	9 摂津市	16	—	—	—	—	—	—	16	
	10 島本町	4	2	1	2	6	2	—	17	
計		198	48	44	60	89	50	1	490	
東 大 阪	11 守口市	13	—	—	—	—	—	—	13	
	12 枚方市	47	10	5	3	—	—	—	65	
	13 寝屋川市	22	2	—	—	—	—	—	24	
	14 大東市	12	1	1	1	2	1	—	18	
	15 門真市	12	—	—	—	—	—	—	12	
	16 四條畷市	5	5	4	2	2	1	—	19	
	17 交野市	10	3	1	6	4	1	—	25	
	18 八尾市	32	3	1	1	1	3	—	41	
	19 柏原市	8	4	3	5	3	2	—	25	
	20 東大阪市	45	5	2	1	5	4	—	62	
計		206	33	17	19	17	12	—	304	
南 河 内	26 富田林市	22	13	3	1	1	—	—	40	
	27 河内長野市	18	12	8	11	27	32	2	110	
	28 松原市	17	—	—	—	—	—	—	17	
	29 羽曳野市	21	2	1	—	2	1	—	27	
	30 藤井寺市	9	—	—	—	—	—	—	9	
	31 太子町	4	3	1	1	3	2	—	14	
	32 河南町	7	2	2	4	8	2	—	25	
33 千早赤阪村	1	5	3	4	12	11	1	37		

市町村		傾斜区分							合 計	備 考
		0°~3°	3°~8°	8°~15°	15°~20°	20°~30°	30°~40°	40°~		
南 河 内	34 狭 山 町	11	1	—	—	—	—	—	12	
	35 美 原 町	12	1	—	—	—	—	—	13	
	計	122	39	18	21	53	48	3	304	
泉 州	21 堺 市	119	10	3	—	—	—	—	132	
	22 泉 大 津 市	10	—	—	—	—	—	—	10	
	23 和 泉 市	42	10	3	5	12	13	—	85	
	24 高 石 市	10	—	—	—	—	—	—	10	
	25 忠 岡 町	3	—	—	—	—	—	—	3	
	36 岸 和 田 市	43	4	3	4	9	7	—	70	
	37 貝 塚 市	20	2	1	4	6	8	—	41	
	38 泉 佐 野 市	25	2	1	3	8	10	2	51	
	39 泉 南 市	19	3	1	4	10	7	—	44	
	40 熊 取 町	12	2	1	1	1	—	—	17	
	41 田 尻 町	2	—	—	—	—	—	—	2	
	42 岬 町	11	3	4	4	16	11	—	49	
	43 阪 南 町	11	2	4	4	9	6	—	36	
計	327	38	25	29	71	62	2	550		
合 計		1,059	158	100	29	230	172	6	1,854	

2-2 標高区分別面積市町村別内訳

市町村		標高区分								合計	備考
		0~ 100	100~ 200	200~ 400	400~ 600	600~ 800	800~ 1000	1000~ 1500	1500~ m		
大 阪 市		206	—	—	—	—	—	—	—	206	
北 大 阪	1 豊 中 市	36	1	—	—	—	—	—	—	37	
	2 池 田 市	15	3	4	—	—	—	—	—	22	
	3 箕 面 市	14	8	18	8	—	—	—	—	48	
	4 東 能 勢 村	—	2	13	18	1	—	—	—	34	
	5 能 勢 町	—	3	53	36	7	—	—	—	99	
	6 吹 田 市	37	—	—	—	—	—	—	—	37	
	7 高 槻 市	46	10	38	11	—	—	—	—	105	
	8 茨 木 市	28	15	22	10	—	—	—	—	75	
	9 摂 津 市	16	—	—	—	—	—	—	—	16	
	10 島 本 町	6	3	5	3	—	—	—	—	17	
計		198	45	153	86	8	—	—	—	490	
東 大 阪	11 守 口 市	13	—	—	—	—	—	—	—	13	
	12 枚 方 市	54	8	3	—	—	—	—	—	65	
	13 寝 屋 川 市	24	—	—	—	—	—	—	—	24	
	14 大 東 市	13	1	4	—	—	—	—	—	18	
	15 門 真 市	12	—	—	—	—	—	—	—	12	
	16 四 条 畷 市	6	4	9	—	—	—	—	—	19	
	17 交 野 市	14	6	5	—	—	—	—	—	25	
	18 八 尾 市	35	2	3	1	—	—	—	—	41	
	19 柏 原 市	14	6	5	—	—	—	—	—	25	
	20 東 大 阪 市	50	3	6	3	—	—	—	—	62	
計		235	30	35	4	—	—	—	—	304	
南 河 内	26 富 田 林 市	23	15	2	—	—	—	—	—	40	
	27 河 内 長 野 市	1	28	36	30	15	—	—	—	110	
	28 松 原 市	17	—	—	—	—	—	—	—	17	
	29 羽 曳 野 市	25	2	—	—	—	—	—	—	27	
	30 藤 井 寺 市	9	—	—	—	—	—	—	—	9	
	31 太 子 町	6	5	3	—	—	—	—	—	14	
	32 河 南 町	7	5	9	3	1	—	—	—	25	
	33 千 早 赤 阪 村	1	4	11	8	13	—	—	—	37	
	34 狭 山 町	7	5	—	—	—	—	—	—	12	
	35 美 原 町	13	—	—	—	—	—	—	—	13	
計		109	64	61	41	29	—	—	—	304	
泉 州	21 堺 市	119	13	—	—	—	—	—	—	132	
	22 泉 大 津 市	10	—	—	—	—	—	—	—	10	
	23 和 泉 市	36	18	19	8	4	—	—	—	85	
	24 高 石 市	10	—	—	—	—	—	—	—	10	
	25 忠 岡 町	3	—	—	—	—	—	—	—	3	
	36 岸 和 田 市	43	9	12	2	4	—	—	—	70	
	37 貝 塚 市	19	7	8	4	3	—	—	—	41	
	38 泉 佐 野 市	28	9	9	4	1	—	—	—	51	
	39 泉 南 市	23	10	11	—	—	—	—	—	44	
	40 熊 取 町	12	4	1	—	—	—	—	—	17	
41 田 尻 町	2	—	—	—	—	—	—	—	2		
42 岬 町	20	21	8	—	—	—	—	—	49		
43 阪 南 町	19	9	8	—	—	—	—	—	36		
計		344	100	76	18	12	—	—	—	550	
合 計		1,092	239	325	149	49	—	—	—	1,854	

2-3 地形区分別面積市町村別内訳

市町村		地形区分		山 地 ・ 火 山 地					丘 陵 地		
		大起伏	中起伏	小起伏	山麓地Ⅰ	山麓地Ⅱ	計	大起伏	小起伏	計	
大 阪 市		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
北 大 阪	1 豊 中 市	—	—	—	—	—	—	—	10	10	
	2 池 田 市	—	0	8	0	2	10	—	—	—	
	3 箕 面 市	—	6	23	1	2	32	—	3	3	
	4 東 能 勢 村	—	7	15	5	—	27	3	—	3	
	5 能 勢 町	—	31	44	0	2	77	—	—	—	
	6 吹 田 市	—	—	—	—	—	—	—	23	23	
	7 高 槻 市	—	8	45	1	—	54	8	2	10	
	8 茨 木 市	—	7	27	3	1	38	3	4	7	
	9 摂 津 市	—	—	—	—	—	—	—	0	0	
	10 島 本 町	—	3	9	—	1	13	—	—	—	
	計	—	62	171	10	8	251	14	42	56	
東 大 阪	11 守 口 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	12 枚 方 市	—	—	4	7	—	11	—	13	13	
	13 寝 屋 川 市	—	—	—	—	0	0	—	5	5	
	14 大 東 市	—	0	5	—	—	5	—	—	—	
	15 門 真 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	16 四 条 畷 市	—	0	12	—	2	14	—	—	—	
	17 交 野 市	—	—	12	—	1	13	1	0	1	
	18 八 尾 市	—	6	1	—	—	7	—	—	—	
	19 柏 原 市	—	2	11	—	1	14	—	1	1	
	20 東 大 阪 市	—	11	2	—	1	14	—	—	—	
	計	—	19	47	7	5	78	1	19	20	
南 河 内	26 富 田 林 市	—	—	2	3	2	7	3	11	14	
	27 河 内 長 野 市	5	49	25	6	3	88	1	5	6	
	28 松 原 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	29 羽 曳 野 市	—	0	3	—	1	4	—	5	5	
	30 藤 井 寺 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	31 太 子 町	—	2	5	—	1	8	—	1	1	
	32 河 南 町	—	3	7	6	1	17	1	0	1	
33 千 早 赤 阪 村	14	8	7	5	—	34	1	—	1		

段 丘			低 地				合 計	備 考
上 位	中 低 位	計	扇性低地	三角州性	自然堤防 砂州	計		
—	19	19	20	116	51	187	206	
1	7	8	10	7	2	19	37	
1	3	4	7	—	1	8	22	
0	10	10	3	—	0	3	48	
—	1	1	3	—	—	3	34	
—	4	4	18	—	—	18	99	
0	—	0	6	5	3	14	37	
—	6	6	22	12	1	35	105	
1	4	5	20	4	1	25	75	
—	—	—	4	10	2	16	16	
—	0	0	3	1	—	4	17	
3	35	38	96	39	10	145	490	
—	—	—	2	10	1	13	13	
2	12	14	16	9	2	27	65	
1	—	1	11	6	1	18	24	
—	1	1	4	7	1	12	18	
—	—	—	1	10	1	12	12	
—	1	1	4	0	0	4	19	
2	4	6	5	—	—	5	25	
—	2	2	24	0	8	32	41	
—	1	1	7	1	1	9	25	
—	2	2	9	22	15	46	62	
5	23	28	83	65	30	178	304	
—	13	13	5	1	—	6	40	
2	8	10	6	—	—	6	110	
—	11	11	5	0	1	6	17	
1	10	11	7	—	0	7	27	
—	3	3	5	1	0	6	9	
—	3	3	2	—	0	2	14	
—	5	5	2	—	0	2	25	
—	2	2	0	—	—	0	37	

地形区分 市町村		山 地 ・ 火 山 地					丘 陵 地			
		大起伏	中起伏	小起伏	山麓地Ⅰ	山麓地Ⅱ	計	大起伏	小起伏	計
南 河 内	34 狭 山 町	—	—	—	—	—	—	—	4	4
	35 美 原 町	—	—	—	—	—	—	—	2	2
	計	19	62	49	20	8	158	6	28	34
泉 州	21 堺 市	—	—	—	—	—	—	6	23	29
	22 泉 大 津 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23 和 泉 市	—	17	16	1	0	34	9	11	20
	24 高 石 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25 忠 岡 町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	36 岸 和 田 市	—	11	15	—	2	28	1	6	7
	37 貝 塚 市	—	11	8	1	1	21	—	2	2
	38 泉 佐 野 市	—	7	15	2	0	24	—	1	1
	39 泉 南 市	—	—	22	4	0	26	—	3	3
	40 熊 取 町	—	—	4	3	0	7	—	4	4
	41 田 尻 町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	42 岬 町	—	—	31	8	3	42	—	—	—
	43 阪 南 町	—	—	20	6	1	27	—	1	1
計	—	46	131	25	7	209	16	51	67	
合 計		19	189	398	62	28	696	37	140	177

段 丘			低 地				合 計	備 考
上 位	中 低 位	計	扇 性 低 地	三 角 州 性	自 然 堤 防 州 砂	計		
1	6	7	1	—	—	1	12	
1	8	9	2	—	—	2	13	
5	69	74	35	2	1	38	304	
14	43	57	21	21	4	46	132	
—	5	5	1	3	1	5	10	
5	20	25	6	—	—	6	85	
—	1	1	2	5	2	9	10	
—	2	2	0	1	0	1	3	
2	21	23	8	3	1	12	70	
0	13	13	3	1	1	5	41	
1	19	20	3	2	1	6	51	
0	9	9	5	0	1	6	44	
—	4	4	2	—	—	2	17	
—	2	2	—	—	0	0	2	
—	1	1	6	—	0	6	49	
—	5	5	3	0	0	3	36	
22	145	167	60	36	11	107	550	
35	291	326	294	258	103	655	1,854	

2-4 表層地質分布面積市町村別内訳

表層地質 市町村		未 固 結 堆 積 物					固 結 堆 積				
		礫	砂	泥	礫 砂 泥 互 層	計	礫 岩	砂 岩	泥 岩	砂岩 泥岩 互 層	珪 岩 質 岩 石
大 阪 市		20	74	112	—	206	—	—	—	—	—
北 大 阪	1 豊 中 市	7	12	8	10	37	—	—	—	0	—
	2 池 田 市	4	7	0	4	15	—	—	6	1	—
	3 箕 面 市	11	3	—	3	17	—	—	10	20	0
	4 東 能 勢 村	1	4	—	3	8	—	—	0	13	—
	5 能 勢 町	4	17	—	—	21	—	9	5	17	1
	6 吹 田 市	0	9	5	23	37	—	—	—	—	—
	7 高 槻 市	7	20	13	12	52	—	—	12	28	10
	8 茨 木 市	5	23	4	11	43	—	—	7	8	1
	9 摂 津 市	—	6	10	0	16	—	—	—	—	—
	10 島 本 町	0	3	1	1	5	—	—	3	8	1
計		39	104	41	67	251	—	9	43	95	13
東 大 阪	11 守 口 市	—	4	9	—	13	—	—	—	—	—
	12 枚 方 市	12	19	8	19	58	—	—	—	—	—
	13 寝 屋 川 市	2	12	5	5	24	—	—	—	—	—
	14 大 東 市	1	5	7	—	13	—	—	—	—	—
	15 門 真 市	—	3	9	—	12	—	—	—	—	—
	16 四 条 畷 市	1	4	0	1	6	—	—	—	—	—
	17 交 野 市	6	5	—	2	13	—	—	—	—	—
	18 八 尾 市	3	32	1	0	36	—	—	—	—	—
	19 柏 原 市	1	8	1	1	11	—	—	—	0	—
	20 東 大 阪 市	4	25	21	1	51	—	—	—	—	—
計		30	117	61	29	237	—	—	—	0	—
南 河 内	26 富 田 林 市	13	5	1	17	36	—	—	—	0	—
	27 河 内 長 野 市	10	7	—	13	30	1	23	—	—	—
	28 松 原 市	10	7	0	—	17	—	—	—	—	—
	29 羽 曳 野 市	10	7	1	6	24	—	—	—	—	—
	30 藤 井 寺 市	3	6	0	—	9	—	—	—	—	—
	31 太 子 町	3	2	—	2	7	—	—	—	—	—
	32 河 南 町	5	3	0	1	9	—	—	—	—	—
33 千 早 赤 阪 村	1	0	—	1	2	—	—	—	—	—	

物		火山性岩石			深成岩			変成岩 ミロナイト	合計
輝線 凝灰岩	計	流紋岩質 岩石	方山岩質 岩石	計	花崗石質 岩石	斑禿岩質 岩石	計		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	206
—	0	—	—	—	—	—	—	—	37
0	7	—	—	—	—	—	—	—	22
1	31	—	—	—	—	—	—	—	48
0	13	—	—	—	13	—	13	—	34
0	32	11	—	11	35	—	35	—	99
—	—	—	—	—	—	—	—	—	37
1	51	—	—	—	2	—	2	—	105
—	16	—	—	—	16	—	16	—	75
—	—	—	—	—	—	—	—	—	16
0	12	—	—	—	—	—	—	—	17
2	162	11	—	11	66	—	66	—	490
—	—	—	—	—	—	—	—	—	13
—	—	—	—	—	7	—	7	—	65
—	—	—	—	—	—	—	—	—	24
—	—	—	—	—	5	—	5	—	18
—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
—	—	—	—	—	13	—	13	—	19
—	—	—	—	—	12	—	12	—	25
—	—	—	—	—	5	—	5	—	41
—	0	—	4	—	10	—	10	—	25
—	—	—	—	—	5	6	11	—	62
—	0	—	4	4	57	6	63	—	304
—	0	—	1	1	3	—	3	—	40
—	24	—	—	—	56	—	56	0	110
—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
—	—	—	3	3	—	—	—	—	27
—	—	—	—	—	—	—	—	—	9
—	—	—	3	3	4	—	4	—	14
—	—	—	—	—	16	—	16	—	25
—	—	—	—	—	35	—	35	—	37

表層地質 市町村		未 固 結 堆 積 物					固 結 堆 積				
		礫	砂	泥	礫 砂 泥 互 層	計	礫 岩	砂 岩	泥 岩	砂 岩 泥 岩 互 層	珪 岩 質 岩 石
南 河 内	34 狭 山 町	7	1	—	4	12	—	—	—	—	—
	35 美 原 町	10	1	—	2	13	—	—	—	—	
	計	72	39	2	46	159	1	23	—	0	
泉 州	21 堺 市	59	23	22	28	132	—	—	—	—	—
	22 泉 大 津 市	5	2	3	—	10	—	—	—	—	—
	23 和 泉 市	26	7	—	20	53	2	9	1	1	—
	24 高 石 市	1	3	6	—	10	—	—	—	—	—
	25 忠 岡 町	1	1	1	—	3	—	—	—	—	—
	36 岸 和 田 市	27	9	3	10	49	1	5	2	—	1
	37 貝 塚 市	12	4	2	3	21	1	4	3	4	—
	38 泉 佐 野 市	21	3	2	1	27	1	9	3	6	—
	39 泉 南 市	9	6	1	3	19	0	11	2	9	—
	40 熊 取 町	4	3	—	4	11	0	—	—	—	—
	41 田 尻 町	2	0	0	—	2	—	—	—	—	—
	42 岬 町	2	7	0	1	10	—	8	3	28	—
	43 阪 南 町	6	4	1	1	10	—	9	4	11	—
	計	175	72	41	70	359	5	55	18	59	1
府 總 計		336	406	257	213	1, 212	6	87	61	154	14

物		火 山 性 岩 石			深 成 岩			変成岩 ミロナイト	合 計
輝 線 凝 灰 岩	計	流 紋 岩 質 岩 石	方 山 岩 質 岩 石	計	花 崗 石 質 岩 石	斑 礫 岩 質 岩 石	計		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
—	—	—	—	—	—	—	—	—	13
—	24	—	7	7	114	—	114	0	304
—	—	—	—	—	—	—	—	—	132
—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
—	13	—	—	—	19	—	19	—	85
—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
—	9	2	—	2	10	—	10	—	70
—	12	3	—	3	5	—	5	—	41
—	19	4	—	4	1	—	1	—	51
—	22	3	—	3	—	—	—	—	44
—	0	3	—	3	3	—	3	—	17
—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
—	39	—	—	—	—	—	—	—	49
—	24	—	—	—	—	—	—	—	36
—	138	15	—	15	38	—	38	—	550
2	324	26	11	37	275	6	281	0	1,854

2-5 土壤統群分布面積市町村別内訳

市町村別 土壤統群	未 熟 土			黒 ボ ク 土			褐 色 森 林 土						
	残積性未熟土壌	砂洲未熟土壌	計	黒ボク土壌	多湿黒ボク土壌	計	乾性褐色森林土壌	乾性褐色森林土壌(黄褐系)	乾性褐色森林土壌(赤褐系)	褐色森林土壌	褐色(黄)森林土壌	褐色(赤)森林土壌	計
府 計	69.1	11.0	80.1	3.3	0.2	3.5	83.4	208.7	133.0	158.7	30.0	24.3	637.6
大 阪 市	—	4.0	4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
能 勢 町	1.5	—	1.5	1.1	—	1.1	2.2	1.2	61.9	2.6	0.1	13.5	81.5
東 能 勢 村	—	—	—	1.0	—	1.0	2.2	—	18.0	5.8	—	2.8	28.6
箕 面 市	—	—	—	—	0.2	0.2	3.6	5.6	15.5	5.7	0.9	3.7	34.9
池 田 市	—	—	—	—	—	—	0.9	0.8	3.3	0.6	0.3	0.5	5.9
豊 中 市	—	—	—	—	—	—	—	0.6	0.4	—	—	—	1.1
吹 田 市	—	—	—	—	—	—	—	4.4	—	—	—	—	4.4
茨 木 市	—	—	—	—	—	—	1.5	7.3	18.1	6.9	0.9	2.3	36.9
高 槻 市	—	4.1	4.1	—	—	—	10.0	7.6	9.6	29.5	1.4	0.7	58.7
島 本 町	—	—	—	—	—	—	2.3	—	2.3	7.3	—	—	11.6
摂 津 市	—	—	—	—	—	—	—	—	2.0	—	—	—	—
北大阪地域計	1.5	4.1	5.6	2.1	0.2	2.3	22.7	27.0	128.8	58.3	3.6	23.5	263.6
枚 方 市	—	0.7	0.7	—	—	—	—	8.4	2.7	—	0.4	0.8	12.3
交 野 市	—	—	—	—	—	—	—	8.6	—	—	3.1	—	11.7
寝 屋 川 市	—	1.0	1.0	—	—	—	—	0.7	—	—	—	—	0.7
門 真 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
守 口 市	—	1.2	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四 条 畷 市	—	—	—	—	—	—	—	9.6	—	—	1.4	—	11.0
大 東 市	—	—	—	—	—	—	—	3.4	—	—	0.7	—	4.1
東 大 阪 市	—	—	—	—	—	—	1.7	2.1	1.2	2.4	0.7	—	8.0
八 尾 市	—	—	—	—	—	—	2.7	1.7	0.3	2.4	0.1	—	7.0
柏 原 市	0.9	—	0.9	—	—	—	0.5	5.5	—	0.3	0.7	—	7.0
東大阪地域計	0.9	2.9	3.8	—	—	—	4.9	40.0	4.2	5.1	7.1	0.8	61.8
松 原 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藤 井 寺 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
羽 曳 野 市	1.6	—	1.6	—	—	—	—	2.3	—	—	0.2	—	2.5
美 原 町	—	—	—	—	—	—	—	1.3	—	—	—	—	1.3
狭 山 町	—	—	—	—	—	—	—	0.8	—	—	—	—	0.8
富 田 林 市	—	—	—	—	—	—	—	10.8	—	—	0.3	—	11.1
河 内 長 野 市	—	—	—	—	—	—	27.4	10.8	—	46.9	2.9	—	88.1
河 南 町	—	—	—	0.1	—	0.1	1.7	4.5	—	5.9	0.2	—	12.4

赤黄色上			灰色台地	褐色低地土			灰色低地土				グライ土				岩石地	合計	備考
赤色土壌	黄色土壌	計	灰色台地土壌	褐色低地土壌	粗粒褐色低地土壌	計	細粒灰色低地土壌	灰色低地土壌	粗粒灰色低地土壌	計	細粒グライ土壌	グライ土壌	粗粒グライ土壌	計	岩石地		
5.9	108.1	114.0	105.1	12.1	20.3	32.4	33.2	52.4	16.6	102.1	29.9	9.1	5.1	44.0	42	1122.1	
-	0	0	1.1	-	-	-	0.5	0.7	0	1.2	0.7	-	-	0.7	-	7.0	
2.3	0.8	3.2	-	3.1	2.8	5.9	6.8	0	0	6.9	-	-	-	-	-	100.0	
0.4	0.5	1.0	-	1.5	0.3	1.8	-	2.9	-	2.9	-	-	-	-	-	35.3	
0.1	4.8	4.8	-	-	0.7	0.7	0.2	1.4	0.7	2.2	-	-	-	-	-	42.8	
0.1	1.0	1.1	-	-	1.0	1.0	1.6	-	-	1.6	-	-	-	-	-	9.5	
-	0.5	0.5	0.6	-	-	-	0.1	0.8	-	0.9	1.2	0.1	0.3	1.6	-	4.7	
-	-	-	0.5	-	-	-	0.7	1.2	-	1.9	-	-	-	-	-	6.9	
0.4	1.9	2.3	-	0.5	3.7	4.2	3.5	3.6	0.8	7.9	1.3	0.8	0.7	2.8	-	54.2	
0.5	1.1	1.6	0.7	-	0.6	0.6	2.7	3.1	2.8	8.5	0.5	1.2	0.6	2.4	-	76.6	
0.2	0.9	1.1	-	-	-	-	-	0.6	-	0.6	-	-	-	-	-	13.2	
-	-	-	-	-	-	-	0.3	0.4	-	0.8	4.4	-	0.1	4.5	-	5.3	
4.0	11.5	15.6	1.8	5.1	9.1	14.2	15.9	14.0	4.3	34.2	7.4	2.1	1.7	11.3	-	348.5	
-	8.0	8.0	0.4	1.3	0.2	1.5	0.1	4.6	2.5	7.2	0.3	2.0	0.3	2.6	-	32.6	
-	3.5	3.5	0.6	-	-	-	-	2.3	-	2.3	-	0.1	-	0.1	-	18.3	
-	3.3	3.3	-	-	-	-	-	1.3	0.2	1.5	1.6	0.9	0.6	3.2	-	9.7	
-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	0.1	3.0	-	-	3.0	-	3.2	
-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-	0.1	0.1	0.1	-	0.2	-	1.4	
-	1.0	1.0	0.3	-	-	-	-	0.6	-	0.6	0.1	0.6	-	0.7	-	13.6	
-	-	-	0.5	-	-	-	0.2	0.7	-	0.9	0.9	1.2	-	2.1	-	7.9	
1.5	1.0	2.5	0.6	-	-	-	4.9	5.6	0.4	10.8	4.8	0.5	0.8	6.1	-	28.0	
-	3.3	3.3	0.1	-	-	-	1.3	7.9	-	9.2	1.2	0.1	-	1.3	-	20.9	
0.1	2.4	2.5	0.1	0.6	-	0.6	0.1	0.3	0.4	0.7	0.7	0.1	-	0.7	-	12.5	
1.6	22.2	23.8	2.6	1.9	0.2	2.1	6.6	23.5	5.5	33.4	12.7	5.6	1.7	20.0	-	148.1	
-	1.0	1.0	3.2	0.9	-	0.9	0.8	0.8	0.5	2.2	1.3	0.3	0.1	1.6	-	8.8	
-	0.8	0.8	-	-	-	-	0.3	0.9	-	1.2	0.2	-	0.4	0.6	-	2.6	
0.2	4.9	5.0	1.3	0.1	0.2	0.3	0.7	0.4	1.8	2.9	1.6	0.1	-	1.7	-	15.3	
-	0.2	0.2	2.9	0.5	0.4	0.9	0.1	0.3	-	0.4	1.0	0.2	-	1.2	-	6.8	
-	3.0	3.0	2.5	-	-	-	-	-	-	-	0.5	0.3	0.5	1.3	-	7.6	
-	1.2	1.2	5.4	-	-	-	-	-	3.3	3.3	0.7	-	-	0.7	-	21.7	
-	2.1	2.1	7.5	-	-	-	-	0.3	0.1	0.4	2.0	0.2	0.6	2.7	-	100.8	
-	2.5	2.5	2.3	0.1	0.8	0.9	0.1	0.3	0.7	1.1	-	-	-	-	-	19.1	

市町村別	未 熟 土			黒 ボ ク 土			褐 色 森 林 土						
	残積性未熟土壌	砂洲未熟土壌	計	黒ボク土壌	多湿黒ボク土壌	計	乾性褐色森林土壌	乾性褐色森林土壌 (黄褐系)	乾性褐色森林土壌 (赤褐系)	褐色森林土壌	褐色森林土壌 (黄褐系)	褐色森林土壌 (赤褐系)	計
太 子 町	0.7	—	0.7	—	—	—	0.2	3.9	—	0.9	0.5	—	5.5
千早赤阪村	—	—	—	0.6	—	0.6	7.6	3.3	—	21.5	0.3	—	32.7
南河内地域計	2.3	—	2.3	0.7	—	0.7	36.9	37.7	—	75.2	4.4	—	154.4
堺 市	—	—	—	—	—	—	—	13.0	—	—	0.6	—	13.5
和 泉 市	4.1	—	4.1	—	—	—	6.7	16.9	—	8.8	1.8	—	34.3
高 石 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
泉 大 津 市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
忠 岡 町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岸 和 田 市	0.2	—	0.2	0.4	—	0.4	3.5	19.9	—	3.2	2.9	—	29.5
貝 塚 市	0.8	—	0.8	0.1	—	0.1	4.0	13.7	—	4.3	1.8	—	23.8
泉 佐 野 市	3.1	—	3.1	—	—	—	2.0	11.8	—	1.1	2.6	—	17.4
田 尻 町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
泉 南 市	16.3	—	16.3	—	—	—	1.0	4.9	—	1.2	1.5	—	8.5
熊 取 町	0.6	—	0.6	—	—	—	—	5.1	—	—	0.5	—	5.6
阪 南 町	14.1	—	14.1	—	—	—	1.4	8.3	—	0.9	0.8	—	11.4
岬 町	25.2	—	25.2	—	—	—	0.3	10.4	—	0.6	2.4	—	13.8
泉州地域計	64.4	—	64.4	0.5	—	0.5	18.9	104.0	—	20.1	14.9	—	157.8

(補)

赤 黄 色 土			灰色台地	褐色低地土			灰色低地土				グライ土				岩石地	合 計	備 考
赤 色 土 壤	黄 色 土 壤	計	灰色台地土 壤	褐色低地土 壤	粗粒褐色低地土 壤	計	細粒灰色低地土 壤	灰色低地土 壤	粗粒灰色低地土 壤	計	細粒グライ土 壤	グライ土 壤	粗粒グライ土 壤	計	岩 石 地		
—	2.6	2.6	0.4	1.4	—	1.4	0.5	0.3	0.2	0.9	—	—	—	—	—	11.5	
—	1.1	1.1	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36.2	
0.2	19.4	19.5	27.4	3.0	1.4	4.4	2.5	3.3	6.6	12.4	7.3	1.1	1.6	9.8	—	230.4	
—	12.2	12.2	13.3	0.1	—	0.1	7.6	5.2	1.1	13.9	1.8	0.3	0.1	2.2	—	55.2	
0.1	17.5	17.6	6.9	1.1	—	1.1	—	2.9	1.1	4.0	—	—	—	—	—	67.9	
—	—	—	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.1	
—	0.1	0.1	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.7	
—	0	0	0.5	—	0.1	0.1	—	0.2	—	0.2	—	—	—	—	—	0.8	
—	12.1	12.1	11.7	—	1.3	1.3	—	0.5	—	0.5	—	—	—	—	—	55.7	
—	3.2	3.2	8.5	0	0.9	0.9	—	0.4	—	0.4	—	—	—	—	—	37.6	
—	3.7	3.7	8.1	—	2.3	2.3	—	1.5	—	1.5	—	—	—	—	0.3	36.4	
—	—	—	0.9	—	—	—	—	0.2	—	0.2	—	—	—	—	—	1.1	
—	2.0	2.0	9.3	0.1	0.9	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2.2	39.3	
—	3.3	3.3	1.9	—	1.4	1.4	—	—	—	—	—	—	—	—	0	12.8	
—	—	—	5.0	—	2.0	2.0	0.1	—	—	0.1	—	—	—	—	1.1	33.6	
—	0.9	0.9	3.4	0.8	0.7	1.5	—	0.1	—	0.1	—	—	—	—	0.6	45.5	
0.1	55.0	55.1	72.2	2.1	9.6	11.7	7.7	10.9	2.2	20.9	1.8	0.3	0.1	2.2	4.2	388.7	

3. 土地利用可能性分級

3-1 土地利用可能性分級別市町村別内訳

(Km²)

市町村	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分地)	計	備 考
府 計	—	193.5	232.1	453.6	235.4	4.3	3.3	732.8	1855.1	
大 阪 市	—	1.9	5.1	—	—	—	—	197.5	204.5	
能 勢 町	—	7.5	7.8	45.0	39.7	—	—	—	98.6	
東 能 勢 村	—	2.3	2.5	16.7	13.8	—	—	—	34.5	
箕 面 市	—	5.7	3.2	22.4	11.0	—	0.6	5.5	48.4	
池 田 市	—	1.7	2.0	3.8	2.0	—	—	12.7	22.2	
豊 中 市	—	2.3	1.5	0.9	—	—	—	31.9	36.6	
吹 田 市	—	1.9	0.5	4.4	—	—	—	29.7	36.5	
茨 木 市	—	10.5	4.9	29.7	9.2	—	—	22.4	76.6	
高 槻 市	—	9.8	10.7	41.9	14.1	—	0.1	28.4	105.0	
島 本 町	—	1.1	1.0	8.0	3.0	—	—	3.6	16.8	
摂 津 市	—	5.2	0.1	—	—	—	—	9.8	15.1	
北大阪地域計	—	48.0	34.2	172.7	92.8	—	0.6	—	490.0	
枚 方 市	—	16.0	4.7	11.9	—	—	—	32.4	65.1	
交 野 市	—	5.3	2.2	10.0	0.7	—	—	7.0	25.3	
寝 屋 川 市	—	5.6	3.5	0.6	—	—	—	15.3	24.9	
門 真 市	—	3.2	—	—	—	—	—	9.1	12.2	
守 口 市	—	0.2	1.2	—	—	—	—	11.8	13.1	
四 条 畷 市	—	2.1	0.6	9.8	1.1	—	—	5.3	18.9	
大 東 市	—	3.0	0.5	4.0	0.4	—	—	10.4	18.3	
東 大 阪 市	—	16.1	2.6	4.0	5.5	—	—	33.8	61.8	
八 尾 市	—	10.5	3.6	3.3	3.5	—	—	20.4	41.3	
柏 原 市	—	1.8	2.1	7.4	1.2	—	—	12.7	25.2	
東大阪地域計	—	63.8	21.0	50.8	12.4	—	—	158.0	306.0	
松 原 市	—	5.0	3.8	—	—	—	—	7.8	16.6	
藤 井 寺 市	—	2.0	0.5	—	—	—	—	6.2	8.7	
羽 曳 野 市	—	5.1	6.0	4.1	0.1	—	—	10.8	26.0	
美 原 町	—	2.3	3.2	1.3	—	—	—	6.6	13.4	
狭 山 町	—	3.6	3.2	0.8	—	—	—	4.5	12.0	
富 田 林 市	—	1.0	11.1	9.5	—	—	—	18.0	39.7	

	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分級)	計	備 考
河内長野市	—	3.5	11.6	38.8	45.7	—	1.1	8.9	109.6	
河 南 町	—	2.5	3.4	10.5	2.7	—	—	6.2	25.4	
太 子 町	—	2.7	3.1	4.1	1.6	—	—	2.7	14.2	
千早赤阪村	—	1.6	4.3	14.2	15.5	—	0.6	0.9	37.1	
南河内地域計	—	29.4	50.2	83.3	65.7	—	1.7	72.5	302.8	
堺 市	—	22.7	19.6	13.0	—	—	—	77.4	132.7	
和 泉 市	—	10.7	21.2	24.0	11.9	—	—	17.6	85.5	
高 石 市	—	—	1.1	—	—	—	—	9.2	10.3	
泉 大 津 市	—	—	1.7	—	—	—	—	8.7	10.4	
忠 岡 町	—	0.2	0.6	—	—	—	—	2.4	3.2	
岸 和 田 市	—	3.8	27.3	14.6	9.6	—	0.3	14.3	70.0	
貝 塚 市	—	2.1	13.2	12.8	9.3	—	0.2	3.1	40.6	
泉 佐 野 市	—	5.2	10.5	10.7	9.3	0.3	0.5	14.1	50.5	
田 尻 町	—	0.2	0.9	—	—	—	—	0.8	1.8	
泉 南 市	—	1.4	10.2	18.5	7.1	2.2	—	5.1	44.4	
熊 取 町	—	2.4	4.3	5.6	0.3	0.1	—	4.5	17.3	
阪 南 町	—	0.1	7.1	19.1	6.3	1.1	—	2.8	36.4	
岬 町	—	1.7	3.9	28.3	11.0	0.6	—	3.1	48.6	
泉州地域計	—	50.4	121.5	146.8	64.6	4.3	1.0	163.1	551.6	

3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連

3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関係

類地区分	山地	丘陵	台地	低地	計
1	—	—	—	—	—
2	14	17	56	125	212
3	49	34	93	64	240
4	346	47	12	16	421
5	240	5	1	4	250
6	7	—	0	0	7
7	5	—	—	—	5
8	35	74	164	446	719
計	696	177	326	655	1,857

3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

(K_d)

傾斜	土地利用可能性分級	土地利用可能性分級								計	備考
		1類地	2類地	3類表	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)		
0°~3°	(S1)	—	177.4	174.5	42.6	0	0.1	—	—	394.6	} 未区分地を 含まない
3°~8°	(S2)	—	16.1	32.5	48.7	1.7	0.2	—	—	99.2	
8°~15°	(S3)	—	—	25.1	48.3	10.0	0.4	—	—	83.8	
15°~30°	(S4)	—	—	—	314.1	50.1	3.0	—	—	367.2	
30°~40°	(S5)	—	—	—	—	173.6	0.7	—	—	174.3	
40°~	(S6)	—	—	—	—	—	—	3.3	—	3.3	
合計	計	—	193.5	232.1	453.6	235.4	4.3	3.3	732.8	1855.1	

3-2-2' 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連（市町村別内訳）

土地利用可能性分級 傾斜区分 市町村	2 類 地			3 類 地				4 類 地				5 類			
	0° ∧ 3° (S1)	3° ∧ 8° (S2)	計	0° ∧ 3° (S1)	3° ∧ 8° (S2)	8° ∧ 15° (S3)	計	0° ∧ 3° (S1)	3° ∧ 8° (S2)	8° ∧ 15° (S3)	15° ∧ 30° (S4)	計	0° ∧ 3° (S1)	3° ∧ 8° (S2)	8° ∧ 15° (S3)
府 計	177.4	16.1	193.5	174.5	32.5	25.1	232.1	42.6	48.7	48.3	314.1	453.6	0	1.7	10.0
大 阪 市	1.9	—	1.9	5.1	—	—	5.1	—	—	—	—	—	—	—	—
能 勢 町	5.5	2.0	7.5	2.8	2.2	2.8	7.8	0.7	1.7	4.6	37.9	45.0	—	0.7	2.4
東 能 勢 村	1.7	0.6	2.3	0.1	0.9	1.5	2.5	0.6	1.8	3.0	11.3	16.7	—	0.5	3.3
箕 面 市	5.3	0.4	5.7	1.1	1.2	0.9	3.2	1.6	1.0	3.7	16.1	22.4	—	—	0.4
池 田 市	1.6	0.2	1.7	0.7	0.7	0.6	2.0	0.1	0.5	0.9	2.3	3.8	—	—	—
豊 中 市	2.2	0.1	2.3	1.2	0.2	0.1	1.5	0.4	0.3	0.2	—	0.9	—	—	—
吹 田 市	1.5	0.4	1.9	0.5	—	—	0.5	2.8	1.1	0.5	—	4.4	—	—	—
茨 木 市	10.2	0.3	10.5	2.0	1.3	1.5	4.9	1.2	5.4	3.9	19.2	29.7	—	0.3	1.8
高 槻 市	9.0	0.8	9.8	8.2	0.5	2.1	10.7	0.9	2.6	4.2	34.2	41.9	—	0.1	0.2
島 本 町	0.8	0.3	1.1	0	0.1	0.9	1.0	—	0	0.1	7.9	9.0	—	—	0
摂 津 市	5.2	—	5.2	0.1	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—
北大阪地域計	42.9	5.1	48.0	16.7	7.1	10.5	34.3	8.4	14.4	21.1	128.9	172.7	—	1.5	8.1
枚 方 市	15.1	0.9	16.0	4.0	0.3	0.5	4.7	2.2	4.5	2.4	2.8	11.9	—	—	—
交 野 市	4.9	0.4	5.3	0.9	0.3	1.0	2.2	0	0.9	0.1	9.0	10.0	—	—	—
寝 屋 川 市	5.6	—	5.6	3.2	0.3	—	3.5	—	0.4	0	0.2	0.6	—	—	—
門 真 市	3.2	—	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
守 口 市	0.2	—	0.2	1.2	—	—	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—
四 条 畷 市	1.4	0.8	2.1	0.1	0.3	0.3	0.6	0.1	2.3	3.4	4.0	9.8	—	—	—
大 東 市	3.0	—	3.0	0.1	0.2	0.1	0.5	—	0.9	0.5	2.7	4.0	—	—	—
東 大 阪 市	15.6	0.5	16.1	1.2	0.9	0.5	2.6	—	—	0.3	3.7	4.0	—	—	0.7
八 尾 市	10.4	0.2	10.5	1.7	1.3	0.6	3.6	—	—	0.6	2.7	3.3	—	—	0.8
柏 原 市	1.0	0.8	1.8	0.8	0.1	1.3	2.1	0.4	0.1	1.2	5.7	7.4	—	—	—
東大阪地域計	60.4	3.4	63.8	13.1	3.7	4.3	21.0	2.7	9.1	8.5	30.6	50.8	—	—	1.5

地			6 類 地						7 類地	8 類地	合 計						
15° ∟ 30° (S4)	30° ∟ 40° (S5)	計	0° ∟ 30° (S1)	3° ∟ 8° (S2)	8° ∟ 15° (S3)	15° ∟ 30° (S4)	30° ∟ 40° (S5)	計	40° ∟ (S6)		0° ∟ 30° (S1)	3° ∟ 8° (S2)	8° ∟ 15° (S3)	15° ∟ 30° (S4)	30° ∟ 40° (S5)	40° ∟ (S6)	計
50.1	173.6	235.4	0.1	0.2	0.4	3.0	0.7	4.3	3.3	—	394.6	99.2	83.8	367.2	174.3	3.3	1122.1
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.0	—	—	—	—	—	7.0
17.7	18.9	39.7	—	—	—	—	—	—	—	—	9.0	6.6	9.9	55.6	18.9	—	100.0
5.5	4.6	13.8	—	—	—	—	—	—	—	—	2.4	3.7	7.7	1.68	4.6	—	35.3
1.5	9.2	11.0	—	—	—	—	—	—	0.6	—	8.0	2.5	5.0	17.7	9.2	0.6	42.8
—	2.0	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	2.3	1.4	1.6	2.3	2.0	—	9.5
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.8	0.6	0.2	—	—	—	4.7
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.9	1.5	0.5	—	—	—	6.9
4.5	2.6	9.2	—	—	—	—	—	—	—	—	13.5	7.3	7.2	23.7	2.6	—	54.2
2.2	11.6	14.1	—	—	—	—	—	—	0.1	—	18.0	4.0	6.5	36.4	11.6	0.1	76.6
0.2	2.9	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	0.8	0.4	1.0	8.0	2.9	—	13.2
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.3	—	—	—	—	—	5.3
3.15	51.7	92.8	—	—	—	—	—	—	0.6	—	68.0	28.1	39.7	160.5	51.8	0.7	348.5
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21.3	5.7	2.9	2.8	—	—	32.6
—	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	5.8	1.6	1.2	9.0	0.7	—	18.3
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.9	0.6	0	0.2	—	—	9.7
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.2	—	—	—	—	—	3.2
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	1.4
—	1.1	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5	3.4	3.7	4.0	1.1	—	13.6
—	0.4	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	3.1	1.1	0.6	2.7	0.4	—	7.9
1.9	3.0	5.5	—	—	—	—	—	—	—	—	16.8	1.3	1.5	5.5	3.0	—	28.0
—	2.7	3.5	—	—	—	—	—	—	—	—	1.21	1.4	1.9	2.7	2.7	—	20.9
—	1.2	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	2.2	1.0	2.5	5.7	1.2	—	12.5
1.9	9.1	12.4	—	—	—	—	—	—	—	—	7.63	16.1	14.3	32.6	9.1	—	148.1

土地利用可能性分級	2 類 地			3 類 地				4 類 地					5 類			
	傾斜区分 市 町 村	0° } 3° (S1)	3° } 8° (S2)	計	0° } 3° (S1)	3° } 8° (S2)	8° } 15° (S3)	計	0° } 3° (S1)	3° } 8° (S2)	8° } 15° (S3)	15° } 30° (S4)	計	0° } 3° (S1)	3° } 8° (S2)	8° } 15° (S3)
松 原 市	5.0	—	5.0	3.8	—	—	3.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藤 井 寺 市	2.0	—	2.0	0.5	—	—	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
羽 曳 野 市	4.9	0.2	5.1	5.6	0.1	0.3	6.0	1.0	0.8	0.5	1.9	4.1	—	—	—	—
美 原 町	2.3	0	2.3	3.2	—	—	3.2	0.8	0.5	—	—	1.3	—	—	—	—
狭 山 町	3.2	0.4	3.6	3.1	0	0	3.2	0.3	0.2	0.2	—	0.8	—	—	—	—
富 田 林 市	0.9	0.2	1.0	8.6	2.3	0.2	11.1	1.5	4.0	2.0	2.0	9.5	—	—	—	—
河 内 長 野 市	2.6	0.9	3.5	5.7	3.5	2.4	11.6	1.7	2.1	3.3	31.7	38.8	—	—	0.2	—
河 南 町	2.2	0.3	2.5	2.4	0.7	0.3	3.4	0.1	0.5	0.6	9.5	10.5	—	—	—	—
太 子 町	1.6	1.1	2.7	1.6	1.0	0.5	3.1	0	0.3	0.5	3.3	4.1	—	—	—	—
千 早 赤 阪 村	0.2	1.5	1.6	0.7	2.2	1.5	4.3	0	0.4	0.5	13.3	14.2	—	0.2	0.3	—
南河内地域計	25.0	4.4	29.4	35.2	9.9	5.1	50.2	5.5	8.8	7.5	61.6	83.3	—	0.2	0.5	—
堺 市	22.0	0.7	22.7	19.0	0.4	0.1	19.6	5.9	5.5	1.7	—	13.0	—	—	—	—
和 泉 市	9.1	1.6	10.7	14.5	4.3	2.4	21.2	10.1	3.0	0.1	10.9	24.0	—	—	—	—
高 石 市	—	—	—	1.1	—	—	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
泉 大 津 市	—	—	—	1.7	—	—	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
忠 岡 町	0.2	—	0.2	0.6	—	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岸 和 田 市	3.6	0.2	3.8	22.1	3.9	1.3	27.3	0.4	0.2	1.3	12.8	14.6	—	—	—	—
貝 塚 市	2.0	0.1	2.1	11.0	1.4	0.9	13.2	0.8	1.0	0.6	10.5	12.8	—	—	—	—
泉 佐 野 市	5.2	—	5.2	10.0	0.5	0.1	10.5	1.1	0.6	0.7	8.4	10.7	—	—	—	—
田 尻 町	0.2	—	0.2	0.9	—	—	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
泉 南 市	1.4	—	1.4	9.9	0.3	0.1	10.2	2.3	1.7	0.8	13.7	18.5	—	—	—	—
熊 取 町	2.3	0.1	2.4	4.0	0.2	0.2	4.3	1.1	1.1	1.0	2.6	5.7	—	—	—	—
販 南 町	0.1	—	0.1	6.4	0.7	0.1	7.1	2.3	1.8	1.6	13.3	19.1	—	—	—	—
岬 町	1.2	0.4	1.7	3.4	0.4	0.1	3.9	2.1	1.8	3.6	20.9	28.3	—	—	—	—
泉州地域計	47.5	3.2	50.4	104.4	12.0	5.2	121.5	26.1	16.5	11.2	93.0	146.8	—	—	—	—

地			6 類 地						7 類地	8 類地	合 計						
15° }	30° }	計	0° }	3° }	8° }	15° }	30° }	計	40° }		0° }	3° }	8° }	15° }	30° }	40° }	計
(S4)	(S5)		(S1)	(S2)	(S3)	(S4)	(S5)		(S6)		(S1)	(S2)	(S3)	(S4)	(S5)	(S6)	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	-	-	-	-	-	8.8
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6	-	-	-	-	-	2.6
-	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	11.5	1.1	0.7	1.9	0.1	-	15.3
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.3	0.5	-	-	-	-	6.8
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	0.6	0.3	-	-	-	7.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	6.5	2.2	2.0	-	-	21.7
8.4	37.2	45.7	-	-	-	-	-	-	1.1	-	10.1	6.5	5.9	40.1	37.2	1.1	100.8
0.8	1.9	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	4.7	1.4	0.8	10.3	1.9	-	19.1
0	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	3.3	2.3	1.0	3.3	1.6	-	11.5
2.9	12.2	15.5	-	-	-	-	-	-	0.6	-	0.8	4.2	2.3	16.2	12.2	0.6	36.2
12.1	52.9	65.7	-	-	-	-	-	-	1.7	-	65.7	23.1	13.2	73.8	53.0	1.7	230.4
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46.9	6.6	1.8	-	-	-	55.2
-	11.9	11.9	-	-	-	-	-	-	-	-	33.7	8.9	2.5	10.9	11.9	-	67.9
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1	-	-	-	-	-	1.1
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	-	-	-	-	-	1.7
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	-	-	-	-	-	0.8
2.2	7.4	9.6	-	-	-	-	-	-	0.3	-	26.1	4.3	2.6	15.0	7.4	0.3	55.7
1.3	8.0	9.3	-	-	-	-	-	-	0.2	-	13.8	2.4	1.5	11.8	8.0	0.2	37.6
1.1	8.2	9.3	-	-	-	0.2	0.1	0.3	0.5	-	16.2	1.0	0.8	9.7	8.3	0.5	36.4
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1	-	-	-	-	-	1.1
-	7.1	7.1	-	0.1	0.1	1.7	0.3	2.2	-	-	13.5	2.0	0.9	15.5	7.3	-	39.3
-	0.3	0.3	-	-	-	0	0.1	0.1	-	-	7.3	1.3	1.2	2.6	0.4	-	12.8
0	6.2	6.3	0.1	0	0.1	0.8	0.1	1.1	-	-	8.8	2.5	1.8	14.2	6.3	-	33.6
-	11.0	11.0	-	0.1	0.2	0.3	0.1	0.6	-	-	6.8	2.7	3.8	21.2	11.1	-	45.5
4.6	60.0	64.6	0.1	0.2	0.4	3.0	0.7	4.3	1.0	-	177.8	31.7	16.9	100.9	60.7	1.0	388.7

土地利用可能性分級	2 類地			3 類 地				4 類 地				5 類 地		
市 町 村 土壌生産力可 能性等級 区分	や	や	や	計	や	や	劣	計	や	や	劣			
	や よ い (P2)	や よ い (P2)	や 劣 る (P3)		や よ い (P2)	や 劣 る (P3)	劣 る (P4)		や よ い (P2)	や 劣 る (P3)	劣 る (P4)			
松 原 市	5.0	—	3.8	3.8	—	—	—	—	—	—	—			
藤 井 寺 市	2.0	—	0.5	0.5	—	—	—	—	—	—	—			
羽 曳 野 市	5.1	—	6.0	6.0	—	0.2	4.0	4.1	—	0	0.1			
美 原 町	2.3	—	3.2	3.2	—	—	1.3	1.3	—	—	—			
狭 山 町	3.6	0	3.1	3.2	—	—	0.8	0.8	—	—	—			
富 田 林 市	1.0	—	11.1	11.1	—	0.7	8.8	9.5	—	—	—			
河 内 長 野 市	3.5	2.0	9.6	11.6	20.3	3.4	15.1	38.8	22.7	0.2	22.8			
河 南 町	2.5	0.1	3.2	3.4	4.7	1.4	4.5	10.5	1.3	—	1.4			
太 子 町	2.7	0.3	2.9	3.1	0.9	0.4	2.8	4.1	0.2	0.2	1.2			
千 早 赤 阪 村	1.6	1.1	3.2	4.3	11.1	0.9	2.3	14.2	8.2	0	7.3			
南 河 内 地 域 計	29.4	3.6	46.6	50.2	36.9	7.0	39.4	83.3	32.5	0.4	32.8			
堺 市	22.7	0.1	19.4	19.6	—	—	13.0	13.0	—	—	—			
和 泉 市	10.7	0	21.2	21.2	2.2	3.7	18.2	24.0	5.8	0.4	5.8			
高 石 市	—	—	1.1	1.1	—	—	—	—	—	—	—			
泉 大 津 市	—	—	1.7	1.7	—	—	—	—	—	—	—			
忠 岡 町	0.2	—	0.6	0.6	—	—	—	—	—	—	—			
岸 和 田 市	3.8	0.1	27.3	27.3	0.5	4.8	9.3	14.6	1.1	1.7	6.9			
貝 塚 市	2.1	0	13.2	13.2	0.2	3.9	8.7	12.8	—	2.8	6.5			
泉 佐 野 市	5.2	—	10.5	10.5	—	1.5	9.2	10.7	—	1.9	7.4			
田 尻 町	0.2	—	0.9	0.9	—	—	—	—	—	—	—			
泉 南 市	1.4	—	10.2	10.2	0.1	1.8	16.6	18.5	—	1.5	5.6			
熊 取 町	2.4	0.1	4.3	4.3	0.1	0.3	5.3	5.6	—	—	0.3			
阪 南 町	0.1	—	7.1	7.1	—	0.6	18.5	19.1	—	1.1	5.2			
岬 町	1.7	—	3.9	3.9	0.2	1.6	26.6	28.3	—	1.6	9.3			
泉 州 地 域 計	50.4	0.3	121.3	121.5	3.3	18.1	125.4	146.8	6.9	10.9	46.8			

計	6 類地	7 類 地					8 類地	合 計				
	は な は だ 劣 る (P5)	や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	劣 る (P4)	は な は だ 劣 る (P5)	計		や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	劣 る (P4)	は な は だ 劣 る (P5)	計
-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	3.8	-	-	8.8
-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	0.5	-	-	2.6
0.1	-	-	-	-	-	-	-	5.1	6.1	4.0	-	15.3
-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	3.2	1.3	-	6.8
-	-	-	-	-	-	-	-	3.7	3.1	0.8	-	7.6
-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	11.8	8.8	-	21.7
45.7	-	0.9	-	0.3	-	1.1	-	49.4	13.2	39.2	-	100.8
2.7	-	-	-	-	-	-	-	8.7	4.6	5.9	-	19.1
1.6	-	-	-	-	-	-	-	4.0	3.5	4.0	-	11.5
15.5	-	0.4	-	0.2	-	0.6	-	22.4	4.1	9.7	-	36.2
65.7	-	1.2	-	0.5	-	1.7	-	103.6	53.9	72.7	-	230.4
-	-	-	-	-	-	-	-	22.8	19.4	13.0	-	55.2
11.9	-	-	-	-	-	-	-	18.7	25.2	24.0	-	67.9
-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1	-	-	1.1
-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	-	-	1.7
-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.6	-	-	0.8
9.6	-	0.1	0.1	0.2	-	0.3	-	5.5	33.8	16.3	-	55.7
9.3	-	-	0.1	0.1	-	0.2	-	2.4	20.0	15.2	-	37.6
9.3	0.3	-	0.2	0.2	-	0.5	-	5.2	14.1	16.8	0.3	36.4
-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.9	-	-	1.1
7.1	2.2	-	-	-	-	-	-	1.5	13.4	22.2	2.2	39.3
0.3	0.1	-	-	-	-	-	-	2.5	4.6	5.5	0.1	12.8
6.3	1.1	-	-	-	-	-	-	0.1	8.7	23.7	1.1	33.6
11.0	0.6	-	-	-	-	-	-	1.8	7.1	35.9	0.6	45.5
64.6	4.3	0.1	0.4	0.5	-	10.0	-	61.0	150.6	172.6	4.3	388.7

3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連

(Km²)

土地利用可能性分級 標高区分	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分地)	合 計	備 考
低 暖 地 帯 (H ₁) 0-400	—	1935	227.0	4065	119.4	4.3	0.7	—	951.4	} 未区分地を 含まない
山 間 地 帯 (H ₂) 400-1000	—	0	5.0	47.1	116.0	0	2.6	—	170.7	
高 冷 地 帯 (H ₃)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
生産限界外地帯(H ₄)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計	—	1935	232.0	4536	235.4	4.3	3.3	7328	1855.1	

3-2-4 土地利用可能性分級と土壤生産力可能性との関連

(Km²)

土地生産力可能 土壤 生産力可能 性等級区分	1 類地	2 類地	3 類地	4 類地	5 類地	6 類地	7 類地	8 類地 (未区分地)	合 計	備 考
はなはだよい(P ₁)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	} 未区分地を含 まない
や や よ い (P ₂)	—	1935	12.0	79.9	60.9	—	1.6	—	347.9	
や や 劣 る (P ₃)	—	—	220.1	75.0	25.6	—	0.6	—	321.3	
劣 る (P ₄)	—	—	—	2988	148.9	—	1.1	—	448.1	
はなはだ劣る(P ₅)	—	—	—	—	—	4.3	—	—	4.3	
合 計	—	1935	232.0	4536	235.4	4.3	3.3	7328	1855.1	

3-2-4' 土地利用可能性分級と土壤生産力可能性との関連(市町村別内訳)

土地利用可能性分級 土壤生産力可能性等級 区分 市町村	2類地		3類地			4類地				5類地		
	や や よ い (P2)	や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	計	や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	劣 る (P4)	計	や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	劣 る (P4)	
府計	1935	120	220.1	2320	79.9	75.0	2988	4536	60.9	25.6	148.9	
大 阪 市	1.9	—	5.1	5.1	—	—	—	—	—	—	—	
能 勢 町	7.5	2.4	5.5	7.8	2.8	16.4	25.8	45.0	0.8	5.2	33.7	
東 能 勢 村	2.3	2.3	0.2	2.5	3.5	5.1	8.1	16.7	2.6	1.0	10.2	
箕 面 市	5.7	0	3.2	3.2	2.2	4.1	16.2	22.4	3.3	3.2	4.5	
池 田 市	1.7	0	2.0	2.0	0.3	0.7	2.8	3.8	0.3	0.8	0.8	
豊 中 市	2.3	—	1.5	1.5	—	—	0.9	0.9	—	—	—	
吹 田 市	1.9	—	0.5	0.5	—	—	4.4	4.4	—	—	—	
茨 木 市	10.5	0.4	4.4	4.9	4.9	6.1	18.7	29.7	1.8	0.2	7.1	
高 槻 市	9.8	1.2	9.6	10.7	18.1	9.0	14.8	41.9	8.9	2.5	2.8	
島 本 町	1.1	0.6	0.5	1.0	4.4	2.0	1.7	8.0	2.0	0.6	0.5	
摂 津 市	5.2	0	0.1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	
北 大 阪 地 域 計	48.0	6.9	27.3	34.2	36.0	43.3	93.4	172.7	19.6	13.6	59.6	
枚 方 市	16.0	0.5	4.3	4.7	0.4	0.3	11.1	11.9	—	—	—	
交 野 市	5.3	0.1	2.2	2.2	0.1	1.7	8.2	10.0	—	0.3	0.4	
寝 屋 川 市	5.6	—	3.5	3.5	0	—	0.5	0.6	—	—	—	
門 真 市	3.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
守 口 市	0.2	—	1.2	1.2	—	—	—	—	—	—	—	
四 条 畷 市	2.1	0.2	0.4	0.6	—	1.1	8.7	9.8	—	0.2	1.0	
大 東 市	3.0	—	0.5	0.5	—	0.7	3.4	4.0	—	—	0.4	
東 大 阪 市	16.1	0	2.5	2.6	1.4	0.6	2.0	4.0	0.9	0.1	4.4	
八 尾 市	10.5	0.2	3.3	3.6	1.3	0	2.0	3.3	0.9	0	2.7	
柏 原 市	1.8	0.3	1.9	2.1	0.5	2.1	4.8	7.4	0.2	0.2	0.9	
東 大 阪 地 域 計	63.8	1.2	19.8	21.0	3.7	6.5	40.6	50.8	2.0	0.7	9.7	

計	6 類地	7 類 地					8 類地	合 計				
	は な は だ 劣 る (P5)	や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	劣 る (P4)	は な は だ 劣 る (P5)	計		や や よ い (P2)	や や 劣 る (P3)	劣 る (P4)	は な は だ 劣 る (P5)	計
235.4	4.3	1.6	0.6	1.1		3.3		347.9	321.3	448.1	4.3	1122.1
-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	5.1	-	-	7.0
39.7	-	-	-	-	-	-	-	13.4	27.1	59.5	-	100.0
13.8	-	-	-	-	-	-	-	10.7	6.3	18.3	-	35.3
11.0	-	0.2	0.2	0.1	-	0.6	-	11.4	10.7	20.8	-	42.8
2.0	-	-	-	-	-	-	-	2.4	3.5	3.6	-	9.5
-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	1.5	0.9	-	4.7
-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	0.5	4.4	-	6.9
9.2	-	-	-	-	-	-	-	17.6	10.7	25.9	-	54.2
14.1	-	0.1	-	-	-	0.1	-	38.0	21.0	17.6	-	76.6
3.0	-	-	-	-	-	-	-	8.0	3.0	2.2	-	13.2
-	-	-	-	-	-	-	-	5.2	0.1	-	-	5.3
92.8	-	0.3	0.2	0.1	-	0.6	-	110.9	84.4	153.1	-	348.5
-	-	-	-	-	-	-	-	16.9	4.6	11.1	-	32.6
0.7	-	-	-	-	-	-	-	5.5	4.2	8.6	-	18.3
-	-	-	-	-	-	-	-	5.7	3.5	0.5	-	9.7
-	-	-	-	-	-	-	-	3.2	-	-	-	3.2
-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	1.2	-	-	1.4
1.1	-	-	-	-	-	-	-	2.3	1.7	9.6	-	13.6
0.4	-	-	-	-	-	-	-	3.0	1.2	3.7	-	7.9
5.5	-	-	-	-	-	-	-	18.4	3.2	6.4	-	28.0
3.5	-	-	-	-	-	-	-	12.9	3.4	4.6	-	20.9
1.2	-	-	-	-	-	-	-	2.7	4.1	5.7	-	12.5
12.4	-	-	-	-	-	-	-	70.8	27.1	50.3	-	148.1

3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要

土地利用可能性分級 地域の概要		1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
地 域 名 (団 地 名)			東 大 阪 平 野	泉 南 台 地	北 摂 山 地
地 形	傾 斜 (谷 密 度)		S (0 ~ 3°)	S (0 ~ 3°)	S ₄ (15 ~ 30°)
	標 高 (植 栽 限 界)		5 m以下	100m以下	100~400m
表 層 地 質	岩 石 の 種 類 岩 石 の か た さ 時 代		泥 砂 完 新 統	砂 礫 更 新 統	砂 岩 3 c 中・古生界
土 壤	農 田	土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 分 級		II 細 粒 グ ラ イ 土 壤	III 灰 色 台 地 土 壤
		土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 等 級			III 黄 色 土 壤
	草 地	土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 等 級			
	林 地	土 壤 統 群 地 位 級			褐 色 森 林 土 壤 II 乾 性 " III " " (赤 褐 系) IV
水 利 用	地 表 水		○	○	○
	地 下 水		×	○	×
	天 水		×	○	×
気 候 区 分			瀬 戸 内	瀬 戸 内	瀬 戸 内
面 積	土 地 利 用 可 能 性 類 地 別 面 積 県 内 合 計 (A)		193.5	232.1	453.6
	当 該 地 域 の 類 地 別 面 積 県 内 合 計 (B) % (B / A)		5.6	32.6	9.6
			2.9	14.0	2.1

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	備 考
和泉山地(東部)	和泉山地(西部)	大木地区	西大阪平野	本表は、類地毎に県内の代表的地域を選定して記入する。
$S_4 \sim S_5$ (15°~40°)	$S_4 \sim S_5$ (15°~40°)	S_6 (40°以上)	S_1 (0~3°)	
100~900m	150~350	200~400m	5m以下	
砂 岩 2 b 中生界白亜系	砂 岩 2 b 中生界白亜系	砂 岩 2 b 中生界白亜系	泥 砂 完 新 統	
-	-	-	-	
-	-	-	-	
-	-	-	-	
褐色森林土壌 II 乾性 " IV	岩石地 V	褐色森林土壌 III " (黄褐色) III		
○ × ×	○ × ×	○ × ×		
瀬戸内	瀬戸内	瀬戸内	瀬戸内	
235.4 25.9 11.0	4.3 2.2 51.2	3.3 0.8 24.2	732.8 78.4 10.7	

3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳

市町村名	類地区分 類地区分および包含される示性式		土 地 利 用 の 現 況																備 考	
			水 田		畑				草 地		林 地				空地・その他					
					普通畑		樹園地		土地占有率	草地の種類および平均収獲量率	人工林		天然林							
					土地占有率	主要作物および平均収獲量率	土地占有率	主要樹種および平均収獲量率			土地占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地占有率	主要樹種および平均収獲量率						
大 阪 市	1 類地																			
	2 類地	112	1.9	B (葉菜)	D	葉 菜														C
	3 類地	113	5.1	B (葉菜)	D	葉 菜														C
	4 類地																			
	5 類地																			
	6 類地																			
	7 類地																			
	8 類地		197.5																	
市 町 村 計		204.5		91																
能 勢 町	1 類地																			
	2 類地	112 122	7.5	A																
	3 類地	113 132 123 222 133	7.8	D		C	ク リ 110					D	ク ヌ ギ 100							
	4 類地	114 144 124 233 134 242 142 243 143	45.0			D	ク リ 85			D	ヒ ノ キ 90	A	ア カ マ ツ ク ヌ ギ 93							
	5 類地	153 244 154 252 224 253 234 254	39.7							B	ク ロ マ ツ 90	C	ア カ マ ツ 95							
	6 類地																			
	7 類地																			
	8 類地																			
市 町 村 計		98.6		103																

市町村名	類地区分		土地利用の現況											備考				
			水田		畑			草地		林地					空地・その他			
			面積	土地利用 占有率	平均取 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地利用 占有率	草地の種類	土地利用 占有率	平均取 穫量率		人工林	天然林	土地利用 占有率	
東 能 勢 村	1 類地																	
	2 類地	112 122	23	A														
	3 類地	132 222 232	25	D			D	クリ 90				D	スギ ヒノキ 100					
	4 類地	114 144 124 233 134 242 142 243 143	16.7				D	クリ 85				D	ヒノキ 95	A	アカマツ クスギ 95			
	5 類地	152 252 234 253 244 254	13.8									D	ヒノキ 90	A	アカマツ クスギ 90			
	6 類地																	
	7 類地																	
	8 類地																	
市町村計		34.5		102														
策 面 市	1 類地																	
	2 類地	112	5.7	C														
	3 類地	113 123 133	3.2	D			D	クリ 90				D	スギ 105					
	4 類地	114 143 124 142 134 243 144	22.4									D	スギ 100	A	アカマツ クスギ 100			
	5 類地	152 254 153 253 154 252 244	11.0									D	ヒノキ 95	A	アカマツ クスギ 95			
	6 類地																	
	7 類地	162 263	0.6															
	8 類地		5.5															
市町村計		48.4		103														

市町村名	類地区分 （おおよび含まれる示性式）		土地利用の現況														備考	
			水田			畑			草地		林地				空地・その他			
			面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑	樹園地	土地利用 占有率	土地利用 占有率	草地の種類 おおよび平均 収穫量率	人工林	天然林	土地利用 占有率	土地利用 占有率	土地利用 占有率	土地利用 占有率		
池田	1類地																	
	2類地	112	1.7	C	(軟弱 ヤシ)		D	イチヂク										
	3類地	113 123 133	2.0	D														
	4類地	134 143 144	3.8									A		アカマツ 100				
	5類地	153 154	2.0							D	クスギ 90		アカマツ 90					
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		12.7															
市町村計		222		99				イチヂク 96										
豊中	1類地																	
	2類地	112	2.3	A														
	3類地	113	1.5	C		D	花木 觀賞樹											
	4類地	114	0.9							A	(モウソウ チク) タケ							
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		31.9															
市町村計		36.6		101														

市町村名	類地区分		土地利用の現況														備考
			水田			畑				草地		林地				空地・その他	
						普通畑		樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林			
類地区分および含まれる示性式	面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率			
吹田	1類地																
	2類地	112	1.9	C													
	3類地	113	0.5	D													
	4類地	114 124 134	4.4								B	(マモウ ソウ) タケ					
	5類地																
	6類地																
	7類地																
	8類地		29.7														
市町村計		36.5		91													
吹木	1類地																
	2類地	112	10.5	B													
	3類地	113 123 133	4.9	C			D	クリ 110			D	スギ 100					
	4類地	114 142 124 143 134 242 144 243	29.7										A	アカマツ カシ 95			
	5類地	152 234 244	9.2										A	アカマツ 90			
	6類地																
	7類地																
	8類地		22.4														
市町村計		76.6		97													

市町村名	類地区区分		土地利用の現況														備考
			水田		畑						草地		林地				
	面積 ha	土地利用 占有率	普通畑		樹園地		土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収獲量率	人工林		天然林		土地利用 占有率				
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率			土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率					
高 視 市	1 類地																
	2 類地	112 122	98	C	(イチゴ)												
	3 類地	113 133 132	10.7	C	(イチゴ)					D	スギ 110						
	4 類地	114 143 124 142 134 242 144 243	41.9							B	スギ ヒノキ 105	C	アカマツ 105				
	5 類地	152 252 153 253 244	14.1									A	アカマツ 100				
	6 類地																
	7 類地		0.1														
	8 類地		28.4														
市町村計		105.0	98														
島 本 町	1 類地																
	2 類地	112	1.1	C													
	3 類地	132	1.0			D	タケ										
	4 類地	142 242 143 243 144	8.0							C	スギ ヒノキ 105	B	アカマツ 100				
	5 類地	152 153 252	3.0									A	アカマツ (コナラ) 95				
	6 類地																
	7 類地																
	8 類地		3.6														
市町村計		16.8	9.6														

市町村名	類地区分		土地利用の現況														備考
			水田			畑				草地		林地				空地・その他	
	面積	土地利用占有率	平均収量率	普通畑		樹園地		土地利用占有率	草地の種類および平均収量率	人工林		天然林		土地利用占有率			
				土地利用占有率	主要作物および平均収量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収量率			土地利用占有率	主要樹種および平均収量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収量率				
津市	1類地																
	2類地	112	5.2	C													
	3類地	113	0.1	D													
	4類地																
	5類地																
	6類地																
	7類地																
	8類地		9.8														
市町村計		15.1		9.8													
秋方市	1類地																
	2類地	112 122	16.0	C													
	3類地	113 132	4.7	C (玉ねぎ)							D	タケ					
	4類地	114 124 134 144	11.9								D	クロマツ 90	A	アカマツ 85			
	5類地																
	6類地																
	7類地																
	8類地		32.4														
市町村計		65.1		9.8 (玉ねぎ) 110													

市町村名	類地区分 および包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
					普通畑	樹園地		土地利用	草地の種類	人工林		天然林						
面積	土地利用	平均収	土地利用	主要作物	土地利用	主要樹種	土地利用	および平均	土地利用	主要樹種	土地利用	主要樹種	土地利用	平均収	平均収	土地利用		
㎡	占有率	穫量率	占有率	および平均	占有率	および平均	占有率	穫量率	占有率	穫量率	占有率	および平均	占有率	穫量率	占有率	穫量率	占有率	
交野市	1 類地																	
	2 類地	112	5.3	C														
	3 類地	113 133	2.2	D			D	ブドウ 116			D	クロマツ 95						
	4 類地	124 143 144	10.0								D	クロマツ 90	A	アカマツ (コナラ) 90				
	5 類地	154	0.7										A	アカマツ 85				
	6 類地																	
	7 類地																	
	8 類地		7.0															
市町村計		25.3		100														
寝屋川市	1 類地																	
	2 類地	112	5.6	C														
	3 類地	113	3.5	D			C	タケ										
	4 類地	124	0.6										A	アカマツ 95				
	5 類地																	
	6 類地																	
	7 類地																	
	8 類地		15.3															
市町村計		24.9		94														

市町村名	類地区分 地区区分および包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑						草地		林地					空地・その他
					普通畑			樹園地			土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収獲量率	人工林		天然林			
					土地利用 占有率	主要作物 および平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率			土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収獲量率				
四 条 畷 市	1 類地																	
	2 類地	112 122	2.1	B														
	3 類地	123	0.6	C														
	4 類地	124 134 143 144	9.8								D	クロマツ 90	A	アカマツ 90				
	5 類地	154	1.1										A	アカマツ (コナラ) 85				
	6 類地																	
	7 類地																	
	8 類地		5.3															
市町村計			189		96													
大 東 市	1 類地																	
	2 類地	112	3.0	C														
	3 類地	123	0.5	B														
	4 類地	124 143 144	4.0								D	クロマツ 90	A	アカマツ クスギ 95				
	5 類地		0.4										A	コナラ 85				
	6 類地																	
	7 類地																	
	8 類地		10.4															
市町村計			18.3		92													

市町村名	類地区区分 おおよび包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
			面積	平均収	普通畑	樹園地	土地利用	草地の種類	人工林	天然林	空地・その他							
面積	平均収	普通畑	樹園地	土地利用	草地の種類	人工林	天然林	空地・その他										
東大坂市	1類地																	
	2類地	112	16.1	C														
	3類地	113 123 133	2.6	C	(葉菜類D) (キクD)	D	葉菜類 キク											
	4類地	142 143 144	4.0								D	クロマツ 95	A	アカマツ コナラ 90				
	5類地	152 154 234 244	5.5								D	クロマツ 90	A	アカマツ コナラ クスギ 85				
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		33.8															
市町村計		61.8		93														
八尾市	1類地																	
	2類地	112	10.5	C														
	3類地	113 123	3.6	C		D	花木類 庭園用樹											
	4類地	134 142 144	3.3			D	花木類 庭園用樹				D	クロマツ 90	A	コナラ アカマツ 88				
	5類地	152 154 234	3.5								D	クロマツ 85	A	コナラ アカマツ 85				
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		20.4															
市町村計		41.3		94														

市町 村名	類地区分 および包含される示性式		土 地 利 用 の 現 況														備 考			
			水 田		畑				草 地		林 地				空地・その他					
			土利占有率	平均収穫量率	普通畑	樹園地	土利占有率	主要作物および平均収穫量率	土利占有率	主要樹種および平均収穫量率	土利占有率	草地の種類	人工林	天然林	土利占有率					
柏原市	1 類地																			
	2 類地	112 122	1.8	B	イチゴ															
	3 類地	113 123 133	2.1	D		A	ブドウ													
	4 類地	134 143 144	7.4			D	ブドウ					A	アカマツ コナラ 90							ブドウ(D)少し
	5 類地	154	1.2									A	アカマツ 85							
	6 類地																			
	7 類地																			
	8 類地		12.7																	
市 町 村 計		25.2																		
松原市	1 類地																			
	2 類地	112	5.0	C	野菜類 (ソラ豆 カンラ ソ)															
	3 類地	113	3.8	C	(ソラ豆)															
	4 類地																			
	5 類地																			
	6 類地																			
	7 類地																			
	8 類地		7.8																	
市 町 村 計		16.6																		

市町村名	類地区分 および包含される示性式		土地利用の現況														備考	
			水田		畑						草地		林地					空地・その他
					普通畑	樹園地		土地利用	草地の種類	人工林		天然林						
面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率			
藤井寺市	1類地																	
	2類地	112	2.0	B	(野菜C)													
	3類地	113	0.5	B	(野菜C)		D	イチヂク										
	4類地																	
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		6.2															
市町村計		8.7		113				イチヂク 116										
羽曳野市	1類地																	
	2類地	112	5.1	B	キヤン イチゴ 他													
	3類地	113	6.0	C	キヤン イチゴ 他		C D	ブドウ イチヂク										
	4類地	114 124 134 144	4.1				D	ブドウ				A	アカマツ 90				ブドウ (D)	
	5類地	154	0.1									A	アカマツ 85					
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		10.8															
市町村計		26.0		117 イチゴ 98				イチヂク 138 ブドウ 103										

市町村名	類地区分 おおよび包含される示性式		土地利用の現況														備考			
			水田		畑				草地		林地				空地・その他					
					普通畑		樹園地		土地利用	草地の種類 おおよび平均 収獲量率	人工林		天然林							
					土地利用	平均収獲量率	土地利用	主要作物 おおよび平均 収獲量率			土地利用	主要樹種 おおよび平均 収獲量率	土地利用	主要樹種 おおよび平均 収獲量率				土地利用	主要樹種 おおよび平均 収獲量率	
美原町	1類地																			
	2類地	112	23	B	(野菜) D															
	3類地	113	32	C	(野菜) D							D	クロマツ 100							
	4類地	114	13									A	クロマツ 90							
	5類地																			
	6類地																			
	7類地																			
	8類地		6.6																	
市町村計		13.4		109																
狭山町	1類地																			
	2類地	112	3.6	D																
	3類地	113	3.2	D			D	ブドウ												
	4類地	114	0.8									A	クロマツ 90							
	5類地																			
	6類地																			
	7類地																			
	8類地		4.5																	
市町村計		12.0		102				ブドウ 92												

市町村名	類地区区分		土地利用の現況														備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					普通畑	樹園地		土	草地の種類	人工林		天然林					
面積 ha	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	利用 占有率	および平均 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 穫量率	土地利用 占有率				
富田 市	1 類地																
	2 類地	112	1.0	B	ナス 里芋 ソラ豆 野菜C												
	3 類地	113 123	11.1	C	野菜 ナス ソラ豆 里芋D	D	ミカン										
	4 類地	114 143 124 144 134	9.5							D	クロマツ 90	A	アカマツ 95				
	5 類地																
	6 類地																
	7 類地																
	8 類地		18.0														
市町村計		39.7		110				ミカン 107									
河内 長野 市	1 類地																
	2 類地	112 122	3.5	B	(イチゴ) D												
	3 類地	113 133 123 222 132 232	11.6	D		D D	ナシ ミカン			D	スギ 120						
	4 類地	114 143 124 144 142 242	38.8						A	スギ ヒノキ 115							
	5 類地	152 252 154 254 244	45.7						A	スギ ヒノキ 105	D	アカマツ 105					
	6 類地																
	7 類地	262	1.1														
	8 類地		89														
市町村計		109.6		95			ナシ ミカン 100 103										

市町 村名	類地区分 面積		土地利用の現況														備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
			土 利 占 有 率	平 均 収 穫 量	普 通 畑	樹 園 地		土 地 利 用	草 地 の 種 類	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用			
率	率	土 利 占 有 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量	土 利 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量	率	率	土 利 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量	土 利 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量	率	率				
千 早 赤 坂 村	1 類 地																
	2 類 地	122	1.6	C													
	3 類 地	113 123 132	43	D			C	ミカン			D	スギ 120					
	4 類 地	134 144 142 242 143	142			D	ミカン			A	スギ ヒノキ 110	D	クスギ 110				
	5 類 地	244 252 254	15.5							A	スギ ヒノキ 105						
	6 類 地																
	7 類 地	262	0.6														
	8 類 地		0.9														
市町村計		37.1		99				ミカン 94									
堺 市	1 類 地																
	2 類 地	112 122	22.7	C													
	3 類 地	113	19.6	D	D	葉菜	D	ミカン									
	4 類 地	114 124 134	13.0							D	クロマン 90	B	アカマン 90				
	5 類 地																
	6 類 地																
	7 類 地																
	8 類 地		77.4														
市町村計		132.7		103				ミカン 96									

市町村名	類地区分		土地利用の現況													備考			
			水田			畑				草地			林地				空地・その他		
			面積	土地利用占有率	平均収獲量率	土地利用占有率	主要作物および平均収獲量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率	草地の種類および平均収獲量率	土地利用占有率	人工林	土地利用占有率	天然林		土地利用占有率	主要樹種および平均収獲量率	土地利用占有率
和泉市	1類地																		
	2類地	112 122	10.7	C	(玉ねぎ) ナス 他 D)														
	3類地	113 123 133	21.2	D	D	切花	B	ミカン											
	4類地	114 143 124 144 142	24.0				C	ミカン			A	スギ ヒノキ 110	D	アカマツ 105					
	5類地	152 154 252 254	11.9								B	スギ ヒノキ 105	C	アカマツ 110					
	6類地																		
	7類地																		
	8類地		17.6																
市町村計		85.5		99 (玉ねぎ) 112)				ミカン 105											
高石市	1類地																		
	2類地																		
	3類地	113	1.1	B															
	4類地																		
	5類地																		
	6類地																		
	7類地																		
	8類地		9.2																
市町村計		10.3		10.5															

市町村名	類地区区分		土地利用の現況														備考	
			水田		畑				草地		林地				空地・その他			
	普通畑				樹園地		土地利用占有率	草地の種類および平均穫量率	人工林		天然林							
	土地利用占有率	平均穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均穫量率			土地利用占有率	主要樹種および平均穫量率	土地利用占有率	主要樹種および平均穫量率	土地利用占有率					
津大市	1類地																	
	2類地																	
	3類地	113	1.7	B														
	4類地																	
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		8.7															
市町村計		10.4		102														
岡忠町	1類地																	
	2類地	112	0.2	C	キャベツ 玉ネギ													
	3類地	113	0.6	C	キャベツ 玉ネギ													
	4類地																	
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		2.4															
市町村計		3.2		99 玉ネギ 108														

市町村名	類地区分 面積		土地利用の現況													備考		
			水田			畑			草地		林地				空地・その他			
			平均収 穫量率	地用 占有率	土利 占有率	普通畑	樹園地	土利 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林	天然林	土利 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土利 占有率			主要樹種 および平均 収穫量率	
岸和田市	1類地																	
	2類地	112	3.8	D	野菜類 玉ねぎ D)													
	3類地	113 123 133	27.3	D	野菜類 玉ねぎ D)		C	ミカン										
	4類地	134 143 144	14.6				D	ミカン			D	タケ						
	5類地	153 253 154 244 252 254	9.6							B	スギ ヒノキ 105	C	アカマツ 105					
	6類地									A	スギ ヒノキ 100	D	アカマツ 100					
	7類地	264	0.3															
	8類地		14.3															
	市町村計		70.0		(102) 玉ねぎ 100)			ミカン 103										
塚原市	1類地																	
	2類地	112	2.1	C	野菜類 玉ねぎ B)													
	3類地	113 123 133	13.2	D	野菜類 玉ねぎ D)		D	ミカン				タケ						
	4類地	114 143 124 144 134 243	12.8							C	クロマツ 105	B	アカマツ 105					
	5類地	153 253 154 254 244	9.3							B	スギ ヒノキ 105	C	アカマツ 100					
	6類地																	
	7類地		0.2															
	8類地		3.1															
	市町村計		40.6		103 玉ねぎ 87)			ミカン 98										

市町村名	類地区分 および包含される示性式		面積 ㎡	土地利用の現況																備考		
				水田			畑						草地		林地				空地・その他 土占有率			
				土占有率	地用率	平均収獲量率	普通畑			樹園地			土占有率	草地の種類 および平均収獲量率	人工林		天然林					
							土占有率	地用率	主要作物および平均収獲量率	土占有率	地用率	主要樹種および平均収獲量率			土占有率	地用率	主要樹種および平均収獲量率	土占有率			地用率	主要樹種および平均収獲量率
泉野市	1類地																					
	2類地	112	5.2	C	野菜類 玉ねぎ キャベツ 他																	
	3類地	113	10.5	C	野菜類 玉ねぎ キャベツ 他				D	ミカン				D	スギ ヒノキ 110							
	4類地	114 143 124 144 134	10.7											B	クロマツ 105	C	アカマツ 95					
	5類地	153 154 244 254	9.3											C	スギ ヒノキ クロマツ 105	B	アカマツ 100					
	6類地	145	0.3																			
	7類地		0.5																			
	8類地		1.41																			
市町村計			50.5																			
田尻町	1類地																					
	2類地	112	0.2	B	野菜類 玉ねぎ 他																	
	3類地	113	0.9	B	野菜類 玉ねぎ 他																	
	4類地																					
	5類地																					
	6類地																					
	7類地																					
	8類地		0.8																			
市町村計			1.8																			

市町 村名	類地区分		土地利用の現況													備考		
			水田			畑				草地		林地					空地・その他	
			面積 ha	土地利用 占有率	平均収 穫量率	普通畑	樹園地		土地利用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林		天然林		土地利用 占有率			
泉 南 市	1 類地																	
	2 類地	112	1.4	B	玉ねぎ 他 B													
	3 類地	113	10.2	C	玉ねぎ 他 C		D	ミカン			D	クロマツ 90						
	4 類地	114 143 124 144 134	18.5				D	ミカン			B	クロマツ 90	C	アカマツ 85				
	5 類地	153 154	7.1								D	クロマツ 85	A	アカマツ 85				
	6 類地	145	2.2															
	7 類地																	
	8 類地		5.1															
市町村計		44.4		98 (玉ねぎ 107)				ミカン 51										
熊 取 町	1 類地																	
	2 類地	112	2.4	C	玉ねぎ C													
	3 類地	113	4.3	C	玉ねぎ D						D	クロマツ 105						
	4 類地	114 124 134 144	5.6								A	クロマツ 105	D	アカマツ 100				
	5 類地	154	0.3								A	クロマツ 100						
	6 類地	155	0.1															
	7 類地																	
	8 類地		4.5															
市町村計		17.3		101 (玉ねぎ 105)														

市町村名	類地区分 および包含される地区の表示式		土地利用の現況														備考
			水田		畑				草地		林地				空地・その他		
					普通畑		樹園地		土地	草地の種類	人工林		天然林				
面積	土地利用占有率	平均収量率	土地利用占有率	主要作物および平均収量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収量率	土地利用占有率	平均収量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収量率	土地利用占有率	平均収量率	土地利用占有率	主要樹種および平均収量率	土地利用占有率		
飯 南 町	1 類地																
	2 類地	112	0.1		B	野菜類 玉ねぎ 他 B											
	3 類地	113 123	7.1		C	野菜類 玉ねぎ 他 C						D	クロマツ 100				
	4 類地	114 143 124 144 134	19.1				D	ミカン				B	クロマツ 95	C	アカマツ 85		
	5 類地	153 154	6.3									A	クロマツ 90	D	アカマツ 90		
	6 類地	145	1.1														
	7 類地																
	8 類地		2.8														
市町村計		36.4		106 玉ねぎ 106				ミカン 46									
岬 町	1 類地																
	2 類地	112	1.7		C												
	3 類地	113	3.9		C							D	クロマツ 85				
	4 類地	114 143 124 144 134	28.3									A	クロマツ 85	D	アカマツ 85		
	5 類地	153 154	11.0									B	クロマツ 90	C	アカマツ 85		
	6 類地	145	0.6														
	7 類地																
	8 類地		3.1														
市町村計		48.6		94													

